入退出管理システム VDM++ 仕様

佐原 伸

タオベアーズ

目次

1	黒板クラス	5
1.1	型	5
1.2	インスタンス変数	5
1.3	構成子	6
1.4	initialize	6
1.5	属性の設定	6
1.6	属性の取得	8
1.7	実際と仮想の世界を比較表示する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
1.8	利用者居場所 DB から削除する	9
1.9	利用者居場所 DB を比較する	
1.10	実際と仮想の利用者居場所が等しいかを判定する....................................	
1.11	ドア DB から削除する	
1.12	DB から削除する	
1.13	利用者 ID の重複がない	
1.14	ID の重複がない	13
2	共通定義クラス	15
3	ドアクラス	16
4	入口ドアクラス	18
5	出口ドアクラス	20
6	仮想ドアクラス	22
7	ガードコマンドクラス	24

[2/111]

8	案内ガードコマンドクラス	27
8.1	ガードコマンド_案内の check	27
8.2	ガードコマンド ₋ 案内の update	28
9	ガードコマンド JD 端末	30
10	ガードコマンド_ID 端末_OK	31
10.1	ガードコマンド_ID 端末_OK の check	31
10.2	ガードコマンド_ID 端末_OK の update	32
11	ガードコマンド_ID 端末_OK_仮想世界	34
11.1	ガードコマンド_ID 端末_OK_仮想世界の check	34
11.2	ガードコマンド_ID 端末_OK_仮想世界の update	35
12	ガードコマンド_ID 端末_NG	36
12.1	ガードコマンド_ID 端末_NG の check	36
12.2	ガードコマンド_ID 端末_NG の update	37
13	ガードコマンド_ID 端末 γ _OK	38
13.1	ガードコマンド_ID 端末 γ _OK の check	38
13.2	ガードコマンド_ID 端末 γ _OK の update	39
14	ガードコマンド_ID 端末 γ _OK_仮想世界	41
14.1	ガードコマンド_ID 端末 γ _OK_仮想世界の check	41
14.2	ガードコマンド_ID 端末 γ _OK_仮想世界の update	42
15	ガードコマンド JD 端末 γ _NG	43
15.1	ガードコマンド_ID 端末 γ _NG の check	43
15.2	ガードコマンド ID 端末 γ NG の update	44
16	ガードコマンド_センサークラス	45
16.1	ガードコマンド_センサーの check	45
16.2	ガードコマンド_センサーの update	46
17	ガードコマンド_センサークラス_仮想世界	48
17.1	ガードコマンド_センサー_仮想世界の check	48
17.2	ガードコマンド_センサー_仮想世界の update	49
18	ガードコマンド_利用者クラス	50
18.1	ガードコマンド_利用者の update	50
18.2	案内すべき利用者である....................................	50
19	ガードコマンド」利用者「認証	52
19.1	ガードコマンド_利用者_認証の check	52

[3/111]

19.2	ガードコマンド_利用者_認証の update	53
20 20.1 20.2	ガードコマンド_利用者_認証_仮想世界 ガードコマンド_利用者_認証_仮想世界の check	
21 21.1 21.2	ガードコマンド_利用者_ドアを開ける ガードコマンド_利用者_ドアを開ける、の check	
22 22.1 22.2	ガードコマンド_利用者_ドアを閉める ガードコマンド_利用者_ドアを閉める、の check ガードコマンド_利用者_ドアを閉める、の update	
23 23.1	ガードコマンド_利用者案内有移動クラス ガードコマンド_利用者案内有移動の check	64 64
24 24.1	ガードコマンド_利用者案内無し移動クラス ガードコマンド_利用者案内無し移動の check	66 66
25	案内表示クラス	68
26	ID カードクラス	69
2627	ID カードクラス ID 端末クラス	69 70
	ID 端末クラス 場所グラフクラス	70 73 73 74 74
27 28 28.1 28.2 28.3	ID 端末クラス 場所グラフクラス インスタンス変数 s 場所 DB	70 73 73 74 74
27 28 28.1 28.2 28.3 28.4	ID 端末クラス 場所グラフクラス インスタンス変数 s 場所 DB インスタンス変数 s 移動可能場所集合 構成子 場所に関する操作群	70 73 73 74 74 75
27 28 28.1 28.2 28.3 28.4	ID 端末クラス 場所グラフクラス インスタンス変数 s 場所 DB	70 73 73 74 74 75
27 28 28.1 28.2 28.3 28.4 29	ID 端末クラス 場所グラフクラス インスタンス変数 s 場所 DB	70 73 73 74 74 75 79
27 28 28.1 28.2 28.3 28.4 29 30	ID 端末クラス	70 73 73 74 74 75 79 80 82
27 28 28.1 28.2 28.3 28.4 29 30 31 32	ID 端末クラス	70 73 73 74 74 75 79 80 82 84

[4/111] 目次 36 TestCaseST0003 クラス 90 37 TestCaseST0004 クラス 93 TestCaseST0005 クラス 38 94 39 TestCaseST0006 クラス 95 40 TestCaseST0007 クラス 96 TestCaseST0008 クラス 41 98 42 TestCaseST0009 クラス 100 43 TestCaseST0010 クラス 102

44

45

46

タッチパネルクラス

利用者クラス

参考文献等

104

106

111

1 黒板クラス

ガードコマンドから参照および更新される属性を持つ。
class
黒板 is subclass of オブジェクト

1.1 型

基本的に、属性を写像で持ち、各属性の写像を DB と称する。黒板属性 DB は、属性と DB の対応を表す。 DB には、案内表示 DB、ID 端末 DB、ID カード DB、センサー DB、タッチパネル DB という場所に関連した DB と、実際の利用者居場所 DB、仮想世界利用者居場所 DB、ドア DB がある。

仮想世界利用者居場所 DB は、認証情報とセンサー情報から推定する利用者の居場所を持つ DB である。

types

1.2 インスタンス変数

s場所グラフは、利用者が移動する場所を表す、場所グラフを持つ。

s 黒板属性 DB は、すべてのガードコマンドの処理が終わるまで更新されない黒板属性 DB である。各ガードコマンドが、重複して同じ黒板属性 DB を更新した場合は、後の方で実行されたガードコマンドの結果が残る。

s 更新黒板属性 DB は、各ガードコマンドが更新する黒板属性 DB である。

instance variables

public s 場所グラフ: 場所グラフ := new 場所グラフ();

s 黒板属性 DB: 黒板属性 DB;

s 更新黒板属性 DB: 黒板属性 DB:= { |-> };

......

1.3 構成子 [6 / 111]

```
1.3 構成子
operations
public
 黒板:黒板属性 DB ==> 黒板
 黒板 (a 黒板属性 DB) ==
   ( s 黒板属性 DB := a 黒板属性 DB;
      def w オブジェクト型集合 = dom s 黒板属性 DB in
      for all wオブジェクト型 in set wオブジェクト型集合
      do ( s 更新黒板属性 DB := s 更新黒板属性 DB ++ {w オブジェクト型 |-> { |-> }}
  );
1.4 initialize
public
 initialize: 黒板属性 DB ==> ()
 initialize (a 黒板属性 DB) ==
  ( s 黒板属性 DB := s 黒板属性 DB ++ a 黒板属性 DB;
      def w オブジェクト型集合 = dom s 黒板属性 DB in
      for all wオブジェクト型 in set wオブジェクト型集合
      do ( s 更新黒板属性 DB := s 更新黒板属性 DB ++ {w オブジェクト型 |-> { |-> }}
        )
  );
1.5 属性の設定
public
 全属性を設定する: 黒板属性 DB * 黒板属性 DB ==> ()
 全属性を設定する (a 黒板属性 DB, a 更新黒板属性 DB) ==
  ( s 黒板属性 DB := a 黒板属性 DB;
      s 更新黒板属性 DB: a 更新黒板属性 DB;
      skip
  );
```

1.5 属性の設定 [7 / 111]

```
設定する:オブジェクト型 * DB ==> ()
 設定する(a オブジェクト型, a 追加 DB) ==
      cases a オブジェクト型:
       ( mk_token ("実際の利用者居場所") ),( mk_token ("仮想世界利用者居場所") ) +>
          s 黒板属性 DB(a オブジェクト型) := 利用者居場所 DB から削除する (s 黒板属性 DB (a オ
ブジェクト型), a 追加 DB),
       ( mk_token(" F7 ") ) +>
          s 黒板属性 DB(a オブジェクト型) := ドア DB から削除する (s 黒板属性 DB (a オ ブ ジェ
クト型), a 追加 DB),
       ( mk_token("案内表示") ),( mk_token("ID 端末") ),( mk_token("ID カード
") ) ( mk_token("タッチパネル") ) ( mk_token("センサー") ) +>
          s 黒板属性 DB(a オブジェクト型) := DB から削除する (s 黒板属性 DB (a オブジェクト型
),a 追加 DB),
       others +> s 黒板属性 DB(a オブジェクト型) := (dom a 追加 DB) <-: s 黒板属性 DB(a オ
ブジェクト型)
     end;
     s 黒板属性 DB(a オブジェクト型) := s 黒板属性 DB(a オブジェクト型) ++ a 追加 DB;
  )
 pre let wDB = s 黒板属性 DB (a オブジェクト型) in
    a オブジェクト型 in set dom s 黒板属性 DB and
    cases a オブジェクト型:
      (mk_token ("実際の利用者居場所")), (mk_token ("仮想世界利用者居場所")) +>
         利用者 ID の重複がない (wDB).
     others +> ID の重複がない (wDB)
    end
 post let wDB = s 黒板属性 DB (a オブジェクト型) in
     cases a オブジェクト型:
       (mk_token ("実際の利用者居場所")), (mk_token ("仮想世界利用者居場所")) +>
          利用者 ID の重複がない (wDB),
      others +> ID の重複がない (wDB)
     end;
public
 更新黒板属性を設定する:オブジェクト型 * DB ==> ()
 更新黒板属性を設定する(a オブジェクト型, aDB) ==
  s 更新黒板属性 DB(a オブジェクト型) := s 更新黒板属性 DB(a オブジェクト型) ++ aDB
 pre a オブジェクト型 in set dom s 更新黒板属性 DB;
```

1.6 属性の取得 [8 / 111]

1.6 属性の取得

```
public
 得る:() ==> 黒板属性 DB * 黒板属性 DB
 得る() ==
  return mk_(s 黒板属性 DB, s 更新黒板属性 DB);
public
 黒板属性を得る:() ==> 黒板属性 DB
 黒板属性を得る() ==
  return s 黒板属性 DB;
public
 更新黒板属性を得る:() ==> 黒板属性 DB
 更新黒板属性を得る() ==
  return s 更新黒板属性 DB;
public
 場所グラフを得る:() ==> 場所グラフ
 場所グラフを得る() ==
  return s場所グラフ;
1.7 実際と仮想の世界を比較表示する
 実際と仮想の世界を比較表示する。
public
 実際と仮想の利用者居場所を比較表示する:(map 利用者 to 場所グラフ '場所 ID) * (map 利用者 to 場
所グラフ (場所 ID) ==> ()
 実際と仮想の利用者居場所を比較表示する (a 利用者のいる場所 DB, a 仮想利用者のいる場所 DB) ==
  def mk_(w 実際の利用者居場所にしか居ない利用者集合、w 仮想世界利用者居場所にしか居ない利用者
集合, w 両方にいる利用者集合) =
        利用者居場所 DB を比較する (a 利用者のいる場所 DB, a 仮想利用者のいる場所 DB);
     - = new IO ().echo
           "\n 実際の利用者居場所にしか居ない利用者集合 = "^
           VDMUtil'val2seq_of_char[set of 利用者](w 実際の利用者居場所にしか居ない利用
者集合)^
           "\n");
```

```
- = new IO ().echo
            (
            "\n 仮想世界利用者居場所にしか居ない利用者集合 = "^
            VDMUtil'val2seq_of_char[set of 利用者](w 仮想世界利用者居場所にしか居ない利
用者集合)^
            "\n");
      - = new IO ().echo
            "\n 両方にいる利用者集合 = "^
            VDMUtil'val2seq_of_char[set of 利用者](w 両方にいる利用者集合)^
            "\n");
      - = new IO ().echo
            "\n 実際の利用者のいる場所 DB"^
            VDMUtil'val2seq_of_char[map 利用者 to 場所グラフ '場所 ID] (a 利用者のいる場
所 DB) ^
            "\n");
      - = new IO ().echo
            (
            "\n 仮想利用者のいる場所 DB" ^
            VDMUtil'val2seq_of_char[map 利用者 to 場所グラフ '場所 ID] (a 仮想利用者のい
る場所 DB) ^
            "\n") in
  skip
1.8 利用者居場所 DB から削除する
 a削除 DB 中の利用者と同じ利用者 ID を持つ利用者を、a 利用者のいる場所 DB から削除する。
functions
```

利用者居場所 DB から削除する: (map 利用者 to 場所グラフ '場所 ID) * (map 利用者 to 場所グラフ '場所 ID) -> map 利用者 to 場所グラフ '場所 ID

利用者居場所 DB から削除する (a 利用者のいる場所 DB, a 削除 DB) ==

- let w 利用者集合 = dom a 利用者のいる場所 DB,
 - w 利用者 ID 集合 = {w 利用者.ID を得る() | w 利用者 in set w 利用者集合 },
 - w削除利用者集合 = dom a削除DB,
 - w 削除利用者 ID 集合 = {w 利用者.ID を得る() | w 利用者 in set w 削除利用者集合 },
 - w 削除後利用者 ID 集合 = w 利用者 ID 集合 \ w 削除利用者 ID 集合,
- w 削除後利用者集合 = $\{w$ 利用者 in set w 利用者集合 & w 利用者.ID を得る() in set w 削除後利用者 ID 集合 $\}$ in
 - w 削除後利用者集合 <: a 利用者のいる場所 DB;

.....

1.9 利用者居場所 DB を比較する

実際と仮想の利用者居場所 DB を比較し、実際の利用者居場所にしか居ない利用者集合、仮想世界利用者居場所にしか居ない利用者集合、両方にいる利用者集合の3つ組みを返す。

.....

利用者居場所 DB を比較する: (map 利用者 to 場所グラフ '場所 ID) * (map 利用者 to 場所グラフ '場所 ID) ->

set of 利用者 * set of 利用者 * set of 利用者

利用者居場所 DB を比較する (a 実際の利用者居場所 DB, a 仮想世界利用者居場所 DB) ==

let w 実際の利用者集合 = dom a 実際の利用者居場所 DB,

- w 実際の利用者 ID 集合 = {w 利用者.ID を得る() | w 利用者 in set w 実際の利用者集合 },
- w 仮想世界利用者集合 = dom a 仮想世界利用者居場所 DB,
- w 仮想世界利用者 ID 集合 = $\{w$ 利用者.ID を得る() | w 利用者 in set w 仮想世界利用者集合 $\}$,
- w 実際の利用者居場所にしか居ない利用者 ID 集合 = w 実際の利用者 ID 集合 \ w 仮想世界利用者 ID 集合,
 - w 実際の利用者居場所にしか居ない利用者集合 =
- $\{w \in \mathbb{R} \mid w \in \mathbb{$
- w 仮想世界利用者居場所にしか居ない利用者 ID 集合 = w 仮想世界利用者 ID 集合 \ w 実際の利用者 ID 集合,
 - w 仮想世界利用者居場所にしか居ない利用者集合 =
- $\{w$ 利用者 | w利用者 in set w 仮想世界利用者集合 & w 利用者.ID を得る() in set w 仮想世界利用者居場所にしか居ない利用者 ID 集合 $\}$,
 - w 両方にいる利用者 ID 集合 = w 仮想世界利用者 ID 集合 inter w 実際の利用者 ID 集合,
 - w 両方にいる利用者集合 =
- $\{w$ 利用者 | w 利用者 in set w 実際の利用者集合 & w 利用者.ID を得る() in set w 両方にいる利用者 ID 集合 $\}$ in
- mk_(w 実際の利用者居場所にしか居ない利用者集合,w 仮想世界利用者居場所にしか居ない利用者集合,w 両方にいる利用者集合);

.....

1.10 実際と仮想の利用者居場所が等しいかを判定する

実際と仮想の利用者居場所が等しいかを判定する。

実際と仮想の利用者居場所が等しい: (map 利用者 to 場所グラフ '場所 ID) * (map 利用者 to 場所グラフ '場所 ID) -> bool

実際と仮想の利用者居場所が等しい (a 実際の利用者居場所 DB, a 仮想世界利用者居場所 DB) ==

let w 実際の利用者集合 = dom a 実際の利用者居場所 DB,

- w 実際の利用者 ID 集合 = {w 利用者.ID を得る() | w 利用者 in set w 実際の利用者集合 },
- w 仮想世界利用者集合 = dom a 仮想世界利用者居場所 DB,
- w 仮想世界利用者 ID 集合 = {w 利用者.ID を得る() | w 利用者 in set w 仮想世界利用者集合 },
- w 実際の利用者居場所にしか居ない利用者 ID 集合 = w 実際の利用者 ID 集合 \ w 仮想世界利用者 ID 集合.
- w 仮想世界利用者居場所にしか居ない利用者 ID 集合 = w 仮想世界利用者 ID 集合 \ w 実際の利用者 ID 集合 in

if w 実際の利用者居場所にしか居ない利用者 ID 集合 = $\{\}$ and w 仮想世界利用者居場所にしか居ない利用者 ID 集合 = $\{\}$

then (forall w 実際の利用者 in set w 実際の利用者集合 &

let w 実際の利用者 ID = w 実際の利用者.ID を得る(),

{w 同じ ID を持つ仮想世界利用者 } =

 $\{w$ 仮想世界利用者 |w| 仮想世界利用者 in set w 仮想世界利用者集合 & w 実際の利用者 ID = w 仮想世界利用者.ID を得る()} in

w 実際の利用者. 属性を得る() = w 同じ ID を持つ仮想世界利用者. 属性を得る())

else false;

.....

1.11 ドア DB から削除する

ドア DB から、a 削除 DB に含まれるドアの ID を持つドアを削除する。

....

ドア DB から削除する: (map ドア 'ドア位置 to ドア 'ドア型) * (map ドア 'ドア位置 to ドア 'ドア型) -> map ドア 'ドア位置 to ドア 'ドア型

ドア DB から削除する (a ドア DB, a 削除 DB) ==

if a F 7 DB <> { |-> }

then let wドア集合 = rng a ドア DB,

- w ドア ID 集合 = {w ドア.ID を得る() | w ドア in set w ドア集合 },
- w削除ドア集合 = rng a削除 DB,
- w 削除ドア ID 集合 = {w ドア.ID を得る() | w ドア in set w 削除ドア集合 },
- w削除後ドア ID 集合 = w ドア ID 集合 \ w削除ドア ID 集合,
- w削除後ドア集合 = {wドア | wドア in setwドア集合&wドア.ID を得る() in setw削

除後ドア ID 集合 } in

a ドア DB :> w 削除後ドア集合

else a F7 DB;

1.12 DBから削除する [13 / 111]

1.12 DB から削除する DB から、a 削除 DB に含まれる ID を持つオブジェクトを削除する。 public DB から削除する:場所関連 DB * 場所関連 DB -> 場所関連 DB DB から削除する (aDB, a 削除 DB) == if aDB <> { |-> } then let w集合 = rng aDB, wID 集合 = {w.ID を得る() | w in set w 集合 }, w 削除集合 = rng a 削除 DB, w 削除 ID 集合 = {w.ID を得る() | w in set w 削除集合 }, w 削除後 ID 集合 = wID 集合 \ w 削除 ID 集合, w 削除後集合 = {w | w in set w 集合 & w.ID を得る() in set w 削除後 ID 集合 } in aDB :> w 削除後集合 else aDB; 1.13 利用者 ID の重複がない public 利用者 ID の重複がない: DB -> bool 利用者 ID の重複がない (aDB) == (let w 集合 = dom aDB, wID 集合 = $\{e.ID$ を得る() | e in set w 集合 $\}$ in card w 集合 = card wID 集合); 1.14 ID **の**重複がない public ID の重複がない: DB -> bool ID の重複がない (aDB) == (let w集合 = rng aDB, wID 集合 = {e.ID を得る() | e in set w 集合 } in card w 集合 = card wID 集合)

 1.14 ID の重複がない
 [14 / 111]

.....

end

黒板

Test Suite:vdm.tcClass:黒板

Name	#Calls	Coverage
黒板 '得る	0	0%
黒板 '黒板	0	0%
黒板 '設定する	0	0%
黒板 '黒板属性を得る	0	0%
黒板 'DB から削除する	0	0%
黒板 'ID の重複がない	0	0%
黒板 '全属性を設定する	0	0%
黒板 '場所グラフを得る	0	0%
黒板 '更新黒板属性を得る	0	0%
黒板 'initialize	0	0%
黒板 'ドア DB から削除する	0	0%
黒板 '利用者 ID の重複がない	0	0%
黒板 '更新黒板属性を設定する	0	0%
黒板 '利用者居場所 DB を比較する	0	0%
黒板 '利用者居場所 DB から削除する	0	0%
黒板 '実際と仮想の利用者居場所が等しい	0	0%
黒板 '実際と仮想の利用者居場所を比較表示する	0	0%
Total Coverage		0%

2 共通定義クラス

本モデルで共通に使用する型である、IDと時間、及び、デバッグ用のログを出すか否かを示す静的インスタンス変数 debug を定義する。debug の値が大きい方が、より詳細なログを出力する。

.....

```
class
共通定義
types
public ID = nat;
public 時間 = int
instance variables
public static debug : nat := 5;
end
共通定義
```

......

3 ドアクラス

実際のドアと仮想のドア(実際にはドアはないが、移動する場所の間にあるとみなし、処理を統一化するために存在する)両方を表す。内側から通る時と外側から通る時では、異なるドアとしている。

......

```
class
ドア is subclass of オブジェクト
values
public
 タイムアウト時間 = 5
types
 public ドア型 = 仮想ドア | 入口ドア | 出口ドア;
 public ドア開閉状態 = <開> | <閉>;
 public ドア錠状態 = <ロック> | <アンロック>;
 public ドア位置 = 場所グラフ '場所 ID * 場所グラフ '場所 ID
instance variables
 public s ドア位置:場所グラフ '場所 ID *場所グラフ '場所 ID;
 public s ドア開閉状態: ドア開閉状態 := <開>;
 public s ドア錠状態: ドア錠状態:= <アンロック>;
 public s ドアが開いた時間: [時間];
operations
public
 タイムアウトである:() \Longrightarrow bool
 タイムアウトである() ==
   is subclass responsibility;
public
 通過可能である:() ==> bool
 通過可能である() ==
  is subclass responsibility;
public
 施錠する:() ==>()
 施錠する() ==
  sドア錠状態:= <ロック>;
public
 施錠されている:() ==> bool
 施錠されている()==
  return s ドア錠状態 = <ロック>;
public
```

```
解錠する:()==>()
 解錠する() ==
  sドア錠状態:= <アンロック>;
public
 解錠されている:() ==> bool
 解錠されている() ==
  return sドア錠状態 = <アンロック>;
public
 開ける:()==>()
 開ける()==
  s ドア開閉状態 := <開>;
public
 閉める:() ==>()
 閉める()==
  is subclass responsibility;
public
 開いている:() ==> bool
 開いている() ==
  return sドア開閉状態 = <開>;
public
 閉まっている:() ==> bool
 閉まっている()==
  return sドア開閉状態 = <閉>;
public
 位置を得る:() ==> 場所グラフ '場所 ID * 場所グラフ '場所 ID
 位置を得る() ==
  return sドア位置;
public
 ID を得る:() ==> 場所グラフ '場所 ID * 場所グラフ '場所 ID
 ID を得る() ==
  return 位置を得る()
end
ドア
```

4 入口ドアクラス

```
実際のドアの、外側から入ることに関係する部分を表す。
class
入口ドア is subclass of ドア
operations
public
 入口ドア:(場所グラフ '場所 ID * 場所グラフ '場所 ID) * ドア錠状態 * ドア開閉状態 ==> 入口
 入口ドア (a ドア位置, a ドア錠状態, a ドア開閉状態) ==
  ( sドア位置 := aドア位置;
     sドア錠状態:= aドア錠状態:
     sドア開閉状態:= aドア開閉状態;
     if sドア開閉状態 = <開>
     then s ドアが開いた時間 := s 現在時間
     else sドアが開いた時間 := nil
  );
public
 入口ドア:(場所グラフ '場所 ID * 場所グラフ '場所 ID) * ドア錠状態 * ドア開閉状態 * [時間
] ==> 入口ドア
 入口ドア(aドア位置,aドア錠状態,aドア開閉状態,aドアが開いた時間) ==
  ( sドア位置:= aドア位置;
     sドア錠状態:= aドア錠状態;
     sドア開閉状態:= aドア開閉状態;
     sドアが開いた時間:= aドアが開いた時間
  );
public
 コピーする: (場所グラフ '場所 ID * 場所グラフ '場所 ID) ==> 入口ドア
 コピーする(aドア位置) ==
  ( return new 入口ドア (a ドア位置, s ドア錠状態, s ドア開閉状態, s ドアが開いた時間)
  );
public
 タイムアウトである:() \Longrightarrow bool
 タイムアウトである() ==
  return s 現在時間 > s ドアが開いた時間 + タイムアウト時間;
public
```

```
通過可能である: () ==> bool
通過可能である() ==
return sドア開閉状態 = <開>;

public
施錠する: () ==> ()
施錠する() ==
sドア錠状態:= <ロック>;

public
閉める: () ==> ()
閉める() ==
sドア開閉状態:= <閉>
end
入口ドア
```

5 出口ドアクラス

```
実際のドアの内側から出ることに関係する部分を表す。
class
出口ドア is subclass of ドア
operations
public
 出口ドア:(場所グラフ '場所 ID * 場所グラフ '場所 ID) * ドア錠状態 * ドア開閉状態 ==> 出口
 出口ドア (a ドア位置, a ドア錠状態, a ドア開閉状態) ==
  ( sドア位置:= aドア位置;
     sドア錠状態:= aドア錠状態:
     sドア開閉状態:= aドア開閉状態;
     if sドア開閉状態 = <開>
     then s ドアが開いた時間 := s 現在時間
     else sドアが開いた時間 := nil
  );
public
 出口ドア:(場所グラフ '場所 ID * 場所グラフ '場所 ID) * ドア錠状態 * ドア開閉状態 * [時間
] ==> 出口ドア
 出口ドア(aドア位置,aドア錠状態,aドア開閉状態,aドアが開いた時間) ==
  ( sドア位置:= aドア位置;
     sドア錠状態:= aドア錠状態;
     sドア開閉状態:= aドア開閉状態;
     sドアが開いた時間:= aドアが開いた時間
  );
public
 コピーする: (場所グラフ '場所 ID * 場所グラフ '場所 ID) ==> 出口ドア
 コピーする(aドア位置) ==
  ( return new 出口ドア(a ドア位置,s ドア錠状態,s ドア開閉状態,s ドアが開いた時間)
  );
public
 タイムアウトである:() \Longrightarrow bool
 タイムアウトである() ==
  return s 現在時間 > s ドアが開いた時間 + タイムアウト時間;
public
```

```
通過可能である: () ==> bool
通過可能である() ==
return sドア開閉状態 = <開>;
public
施錠する: () ==> ()
施錠する() ==
skip;
public
閉める: () ==> ()
閉める() ==
sドア開閉状態:= <閉>
end
出口ドア
```

6 仮想ドアクラス

仮想のドア(実際にはドアはないが、移動する場所の間にあるとみなし、処理を統一化するために存在する)を表す。

内側から通る時と外側から通る時では、異なるドアとしている。

```
......
class
仮想ドア is subclass of ドア
operations
public
 仮想ドア: (場所グラフ '場所 ID * 場所グラフ '場所 ID) ==> 仮想ドア
 仮想ドア(a ドア位置) ==
  ( sドア位置 := aドア位置;
     sドア錠状態:= <アンロック>;
     s ドア開閉状態 := <開>;
     sドアが開いた時間:= nil
  );
public
 仮想ドア:(場所グラフ '場所 ID * 場所グラフ '場所 ID) * ドア錠状態 * ドア開閉状態 * [時間
] ==> 仮想ドア
 仮想ドア(aドア位置,aドア錠状態,aドア開閉状態,aドアが開いた時間) ==
  ( sドア位置:= aドア位置:
     sドア錠状態:= aドア錠状態;
     sドア開閉状態:= aドア開閉状態;
     sドアが開いた時間:= aドアが開いた時間
  );
public
 コピーする: (場所グラフ '場所 ID * 場所グラフ '場所 ID) ==> 仮想ドア
 コピーする(aドア位置) ==
  ( return new 仮想ドア (a ドア位置, s ドア錠状態, s ドア開閉状態, s ドアが開いた時間)
  );
public
 タイムアウトである:() ==> bool
 タイムアウトである() ==
  return false;
public
 通過可能である:() ==> bool
 通過可能である() ==
  return true;
```

```
public
施錠する: () ==> ()
施錠する() ==
    skip;
public
閉める: () ==> ()
閉める() ==
    skip
end
仮想ドア
```

7 ガードコマンドクラス

ガード条件が満たされた場合に、指定された処理を行うオブジェクトを定義した、ガードコマンドクラスの 抽象クラス。

```
class
ガードコマンド is subclass of オブジェクト
instance variables
 protected s 局所黒板: 黒板:= new 黒板();
operations
public
 check: 黒板 ==> ()
 check (-) ==
  is subclass responsibility;
public
 update: 黒板 ==> ()
 update(-) ==
  is subclass responsibility;
.....
7.0.1 ある場所の利用者を次の場所へ移動させる
 利用者を移動させ、移動後、利用者の移動意志を無くす。
public
 ある場所の利用者を次の場所へ移動させる:場所グラフ'利用者のいる場所 DB * 利用者 * 場所グラ
フ '場所 ID * 場所グラフ '場所 ID * seq of char * seq of char * seq of char ==>
                           ()
 ある場所の利用者を次の場所へ移動させる (a 利用者のいる場所 DB, a 利用者, a 居場所 ID, a 次の場
所 ID, a オブジェクト型, a クラス名, a メッセージ) ==
```

(dcl w 更新利用者: 利用者 := a 利用者. コピーする (a クラス名);

```
def a 場所グラフ = s 局所黒板. 場所グラフを得る() in
      if a場所グラフ. 利用者が移動可能である (a利用者のいる場所 DB, a次の場所 ID)
      then ( w 更新利用者.前にいた場所を設定する (a 居場所 ID);
             s 局所黒板.更新黒板属性を設定する (mk_token (a オブジェクト型), {w 更新利用者. 到着時間を更新する ()
の場所 ID});
             def - = debug >= 5 => new IO().echo
                       "\n"^a メッセージ^
                       VDMUtil'val2seq_of_char[利用者 * 場所グラフ '場所 ID * 場所グ
ラフ '場所 ID]
                           (
                           mk_(w 更新利用者, a 居場所 ID, a 次の場所 ID)) ^
                       "\n") in
             skip
      else def -= debug >= 5 => new IO().echo
                    "\n 利用者が移動できません!!!"^
                    VDMUtil'val2seq_of_char[利用者 * 場所グラフ '場所 ID * 場所グラ
フ '場所 ID]
                        mk_(w 更新利用者, a 居場所 ID, a 次の場所 ID)) ^
                    "\n") in
          skip
  )
functions
public
 利用者集合に含まれている: set of 利用者 * 利用者 -> bool
 利用者集合に含まれている (a 利用者集合, a 利用者) ==
  let w 利用者 ID 集合 = {w 利用者.ID を得る() | w 利用者 in set a 利用者集合 },
      w 利用者 ID = a 利用者.ID を得る() in
  w利用者 ID in set w利用者 ID 集合
end
ガードコマンド
  Test Suite:
              vdm.tc
  Class:
               ガードコマンド
```

Name	#Calls	Coverage
ガードコマンド 'check	0	0%
ガードコマンド 'update	0	0%
ガードコマンド '利用者集合に含まれている	0	0%
ガードコマンド 'ある場所の利用者を次の場所へ移動させる	0	0%
Total Coverage		0%

8 案内ガードコマンドクラス

利用者を案内するアルゴリズムを持つ。

本来は、ID 認証やセンサーから得られる情報だけで構築した、仮想世界の利用者居場所の情報から案内す べきであるが、正しい位置情報を得ることが非常に困難であるため、適切に案内ができないので、実際の利用 者居場所の情報から案内を作成している。

```
ガードコマンド_案内 is subclass of ガードコマンド
instance variables
 public s 場所 ID:場所グラフ '場所 ID;
operations
public
 ガードコマンド_案内:場所グラフ '場所 ID ==> ガードコマンド_案内
 ガードコマンド_案内 (a 場所 ID) ==
  ( s場所 ID := a場所 ID
  );
```

8.1 ガードコマンド₋案内の check

```
場所に一番早く来た利用者を案内し、移動させる。
移動結果は、局所黒板の更新黒板属性に設定する。
```

.....

```
public
```

```
check: 黒板 ==> ()
 check (a 大域黒板) ==
  ( def mk_(w 黒板属性 DB, w 更新黒板属性 DB) = a 大域黒板. 得る() in
      s 局所黒板.全属性を設定する (w 黒板属性 DB, w 更新黒板属性 DB);
     def mk_(w 黒板属性 DB,-) = s 局所黒板. 得る();
         w場所グラフ = s 局所黒板.s 場所グラフ;
         w 利用者のいる場所 DB = w 黒板属性 DB (mk_token ("実際の利用者居場所"));
         w 利用者の居場所 ID = s 場所 ID;
         w 利用者集合 = dom (w 利用者のいる場所 DB:> {w 利用者の居場所 ID}) in
      ( if w 利用者集合 <> {}
         then def w 選択した一人の利用者 = 利用者 '到着時間が一番早い利用者を選ぶ (w 利用者集
合);
```

```
w 移動場所 ID = w 場所グラフ. 案内可能な次の場所 ID を得る (w 利用者のいる場
所DB) in
             ( if w 移動場所 ID = nil
                then return
                else ( dcl w 更新案内表示: 案内表示 := new 案内表示(w 利用者の居場
所 ID, w 選択した一人の利用者, w 移動場所 ID);
                       s 局所黒板.更新黒板属性を設定する (mk_token ("案内表示"), {w 利
用者の居場所 ID |-> w 更新案内表示 });
                       def -= debug >= 5 => new IO().echo
                                 "\n 利用者が、案内表示を作成しました。"^
                                 VDMUtil'val2seq_of_char[利用者 * 場所グラフ '場
所 ID * 案内表示]
                                    (
                                     mk_(w 選択した一人の利用者,w 利用者の居場
所 ID, w 更新案内表示))^
                                 "\n") in
                       skip
                    )
  );
8.2 ガードコマンド<sub>-</sub>案内の update
 局所黒板の案内表示 DB を大域黒板に設定する。
public
 update: 黒板 ==> ()
 update(a 大域黒板) ==
  def w 更新黒板属性 DB = s 局所黒板. 更新黒板属性を得る();
      w 更新案内表示 DB = w 更新黒板属性 DB (mk_token ("案内表示")) in
  a 大域黒板.設定する (mk_token ("案内表示"),w 更新案内表示 DB)
end
ガードコマンド_案内
  Test Suite:
              vdm.tc
  Class:
              ガードコマンド_案内
```

Name	#Calls	Coverage
ガードコマンド_案内 'check	0	0%
ガードコマンド_案内 'update	0	0%
ガードコマンド_案内'ガードコマンド_案内	0	0%
Total Coverage		0%

9 ガードコマンド_ID 端末

ID 端末ガードコマンドの抽象クラス。

......

class

ガードコマンド_ID 端末 is subclass of ガードコマンド

instance variables

public s 利用者: 利用者; public sID 端末: ID 端末;

end

ガードコマンド_ID 端末

.....

Test Suite: vdm.tc

Class: ガードコマンド_ID 端末

Name	#Calls	Coverage
Total Coverage		undefined

10 ガードコマンド_ID 端末_OK

```
ID 端末アルファまたはベータで、利用者の認証が可だった場合のガードコマンド。
ガードコマンド_ID 端末_OK is subclass of ガードコマンド_ID 端末
operations
public
 ガードコマンド_ID 端末_OK: ID 端末 ==> ガードコマンド_ID 端末_OK
 ガードコマンド_ID 端末_OK (an ID 端末) ==
  ( sID 端末 := anID 端末
  );
10.1 ガードコマンド_ID 端末_OK の check
 ID 端末が利用不可能で、かつ ID カードが正規の物であるならば、ドアを解錠し、ID 端末利用可能にする。
.....
public
 check: 黒板 ==> ()
 check (a 大域黒板) ==
  ( def mk_(w 黒板属性 DB, w 更新黒板属性 DB) = a 大域黒板. 得る() in
     s 局所黒板.全属性を設定する (w 黒板属性 DB, w 更新黒板属性 DB);
     def mk_(w 黒板属性 DB,-) = s 局所黒板. 得る();
        w 位置 = sID 端末. 位置を得る();
        wID 端末 DB = w 黒板属性 DB (mk_token ("ID 端末"));
        wID 端末 = wID 端末 DB (w 位置);
        w 仮想移動する利用者 = wID 端末.s 利用者;
        w ドア DB: map ドア 'ドア位置 to ドア 'ドア型 = w 黒板属性 DB (mk_token ("ドア"));
        w 開くべきドア = w ドア DB (mk_(f,t)) in
     ( if wID 端末. 利用不可能である () and wID 端末. 正当な利用者から認証依頼された () and w 開くべきドア. 施錠さ
        then ( dcl w 更新 ID 端末: ID 端末:= wID 端末. コピーする (w 位置),
                 w 更新開くべきドア: ドア:= w 開くべきドア. コピーする (mk_{\perp}(f,t));
```

```
w 更新開くべきドア.解錠する();
               w 更新 ID 端末.利用可能にする();
               s 局所黒板.更新黒板属性を設定する (mk_token ("ドア"), {mk_(f,t) |-> w 更
新開くべきドア });
               新 ID 端末 });
               def -= debug >= 5 => new IO().echo
                        "\n 利用者が、解錠しました。"^
                        VDMUtil'val2seq_of_char[利用者 * 場所グラフ '場所 ID *
場所グラフ '場所 ID]
                            mk_(w 仮想移動する利用者,f,t))^
                        "\n") in
               skip
            )
     )
  ) :
10.2 ガードコマンド_ID 端末_OK の update
 局所黒板のドア DB と ID 端末 DB とを大域黒板に設定する。
public
 update: 黒板 ==> ()
 update (a 大域黒板) ==
  def w 更新黒板属性 DB = s 局所黒板. 更新黒板属性を得る();
     wドアDB = w 更新黒板属性DB (mk_token ("ドア"));
     wID 端末 DB = w 更新黒板属性 DB (mk_token ("ID 端末")) in
  ( a 大域黒板.設定する (mk_token ("ドア"),wドア DB);
     a 大域黒板.設定する (mk_token ("ID 端末"), wID 端末 DB)
  )
end
ガードコマンド_ID 端末_OK
  Test Suite:
             vdm.tc
             ガードコマンド_ID 端末_OK
  Class:
```

Name	#Calls	Coverage
ガードコマンド_ID 端末_OK'check	0	0%
ガードコマンド_ID 端末_OK'update	0	0%
ガードコマンド_ID 端末_OK'ガードコマンド_ID 端末_OK	0	0%
Total Coverage		0%

11 ガードコマンド_ID 端末_OK_仮想世界

```
ID 端末アルファまたはベータで利用者の認証が可だった場合の仮想世界用ガードコマンド。
ガードコマンド_ID 端末_OK_仮想世界 is subclass of ガードコマンド_ID 端末
operations
public
 ガードコマンド_ID 端末_OK_仮想世界: ID 端末 ==> ガードコマンド_ID 端末_OK_仮想世界
 ガードコマンド_ID 端末_OK_仮想世界 (an ID 端末) ==
  ( sID 端末 := anID 端末
  );
11.1 ガードコマンド_ID 端末_OK_仮想世界の check
 ID 端末が利用不可能で、かつ ID カードが正規の物であるならば、仮想世界で利用者がドアを通過し終わ
り、次の場所へ移動したと仮定する。
.....
public
 check: 黒板 ==> ()
 check (a 大域黒板) ==
  ( def mk_(w 黒板属性 DB, w 更新黒板属性 DB) = a 大域黒板. 得る() in
     s 局所黒板.全属性を設定する (w 黒板属性 DB, w 更新黒板属性 DB);
     def mk_(w 黒板属性 DB,-) = s 局所黒板. 得る();
        w 仮想利用者のいる場所 DB = w 黒板属性 DB (mk_token ("仮想世界利用者居場所"));
        w 位置 = sID 端末. 位置を得る();
        wID 端末 DB = w 黒板属性 DB (mk_token ("ID 端末"));
        wID端末 = wID端末DB(w位置);
        w 仮想移動する利用者 = wID 端末.s 利用者;
         w ドア DB: map ドア 'ドア位置 to ドア 'ドア型 = w 黒板属性 DB (mk_token ("ドア"));
         \{mk_{-}(f,t)\} = \{mk_{-}(f,t) \mid mk_{-}(f,t) \text{ in set dom } w \mid \mathcal{T} \mid DB \& f = w 位置 \};
        w 仮想利用者の移動元 ID = f;
        w 仮想利用者の移動先 ID = t;
        w 仮想移動済利用者集合 = dom(w 仮想利用者のいる場所 DB :> {w 仮想利用者の移動
先 ID});
```

```
w 開くべきドア = w ドア DB (mk_(w 仮想利用者の移動元 ID,t)) in
     ( if wID端末.利用可能である() and wID端末.正当な利用者から認証依頼された() and
         not 利用者集合に含まれている(w 仮想移動済利用者集合,w 仮想移動する利用者) and
         w 開くべきドア. 解錠されている()
       then (ある場所の利用者を次の場所へ移動させる
                (w 仮想利用者のいる場所 DB, w 仮想移動する利用者, w 仮想利用者の移動
元 ID, w 仮想利用者の移動先 ID,
                "仮想世界利用者居場所", "ガードコマンド_ID 端末_OK_仮想世界",
                "利用者が認証され、ドアが解錠され利用可能なので、利用者が移動したと
仮定します。")
  ) ;
11.2 ガードコマンド_ID 端末_OK_仮想世界の update
 局所黒板の仮想世界利用者居場所 DB を大域黒板に設定する。
public
update: 黒板 ==> ()
update (a 大域黒板) ==
  def w 更新黒板属性 DB = s 局所黒板. 更新黒板属性を得る();
    w 仮想世界利用者居場所 DB = w 更新黒板属性 DB (mk_token ("仮想世界利用者居場所")) in
  ( a 大域黒板.設定する (mk_token ("仮想世界利用者居場所"), w 仮想世界利用者居場所 DB)
  )
end
ガードコマンド_ID 端末_OK_仮想世界
Test Suite:
           vdm.tc
```

Name	#Calls	Coverage
ガードコマンド_ID 端末_OK_仮想世界 'check	0	0%
ガードコマンド_ID 端末_OK_仮想世界 'update	0	0%
ガードコマンド_ID 端末_OK_仮想世界 'ガードコマンド_ID 端末_OK_仮想世界	0	0%
Total Coverage		0%

ガードコマンド.ID 端末.OK.仮想世界

Class:

12 ガードコマンド_ID 端末_NG

```
ID 端末で利用者の認証が不可だった場合のガードコマンド。
ガードコマンド_ID 端末_NG is subclass of ガードコマンド_ID 端末
operations
public
 ガードコマンド_ID 端末_NG: ID 端末 ==> ガードコマンド_ID 端末_NG
 ガードコマンド_ID 端末_NG (an ID 端末) ==
  ( sID 端末 := anID 端末
  );
12.1 ガードコマンド_ID 端末_NG の check
 ID 端末が利用不可能で、かつ ID カードが正規の物でないならば、ID 端末を利用可能にする。それ以外、
何もしない。
.....
public
 check: 黒板 ==> ()
 check (a 大域黒板) ==
  ( def mk_(w 黒板属性 DB, w 更新黒板属性 DB) = a 大域黒板. 得る() in
     s 局所黒板.全属性を設定する (w 黒板属性 DB, w 更新黒板属性 DB);
     def mk_(w 黒板属性 DB,-) = s 局所黒板. 得る();
        w 位置 = sID 端末. 位置を得る();
        wID 端末 DB = w 黒板属性 DB (mk_token ("ID 端末"));
```

if wID 端末. 利用不可能である() and not wID 端末. 正当な利用者から認証依頼された()

then (dcl w 更新 ID 端末: ID 端末:= wID 端末. コピーする(w 位置);

wID 端末 = wID 端末 DB (w 位置) in

```
w 更新 ID 端末.利用可能にする();
             s局所黒板.更新黒板属性を設定する(mk_token ("ID端末"), {w 更新 ID端末. 位置を得る() |-> w 更
新 ID 端末 });
             def -= debug >= 5 => new IO().echo
                        "\n 利用者が、認証できませんでした。"^
                        VDMUtil'val2seq_of_char[利用者 * ID 端末]
                           mk_(wID 端末.s 利用者,wID 端末))^
                        "\n") in
             skip
          )
  );
12.2 ガードコマンド_ID 端末_NG の update
 局所黒板の ID 端末 DB を大域黒板に設定する。
 update: 黒板 ==> ()
 update (a 大域黒板) ==
  def w 更新黒板属性 DB = s 局所黒板. 更新黒板属性を得る();
      wID 端末 DB = w 更新黒板属性 DB (mk_token ("ID 端末")) in
  a 大域黒板.設定する (mk_token ("ID 端末"), wID 端末 DB)
end
ガードコマンド_ID 端末_NG
```

Name	#Calls	Coverage
ガードコマンド_ID 端末_NG'check	0	0%
ガードコマンド_ID 端末_NGʻupdate	0	0%
ガードコマンド_ID 端末_NG'ガードコマンド_ID 端末_NG	0	0%
Total Coverage		0%

ガードコマンド_ID 端末_NG

Test Suite: vdm.tc

Class:

13 ガードコマンド_ID 端末 γ_OK

```
ID 端末γで利用者の認証が可だった場合のガードコマンド。
ガードコマンド_ID 端末γ_OK is subclass of ガードコマンド_ID 端末
operations
public
 ガードコマンド_ID 端末 γ _OK: ID 端末 ==> ガードコマンド_ID 端末 γ _OK
 ガードコマンド_ID 端末 γ_OK (an ID 端末) ==
  ( sID 端末 := anID 端末
  );
13.1 ガードコマンド_ID 端末 γ_OK の check
```

ID 端末が利用不可能で、かつ ID カードが正規の物であるならば、タッチパネルを入力可能にし、ID 端末 γを利用可能にする。

.....

```
public
```

```
check: 黒板 ==> ()
check (a 大域黒板) ==
 ( def mk_(w 黒板属性 DB, w 更新黒板属性 DB) = a 大域黒板. 得る() in
    s 局所黒板.全属性を設定する (w 黒板属性 DB, w 更新黒板属性 DB);
    def mk_(w 黒板属性 DB,-) = s 局所黒板. 得る();
        w 位置 = sID 端末. 位置を得る();
        wID 端末 DB = w 黒板属性 DB (mk_token ("ID 端末"));
        wID 端末 = wID 端末 DB (w 位置);
        w タッチパネル DB = w 黒板属性 DB (mk_token ("タッチパネル"));
        w タッチパネル: タッチパネル = w タッチパネル DB (wID 端末. 位置を得る()) in
    if wID 端末. 利用不可能である() and wID 端末. 正当な利用者から認証依頼された()
    then ( dcl w 更新タッチパネル: タッチパネル := w タッチパネル. コピーする (w 位置),
               w 更新 ID 端末: ID 端末:= wID 端末. コピーする(w 位置);
```

```
w 更新タッチパネル.入力可能にする();
            w 更新 ID 端末.利用可能にする();
            s 局所黒板.更新黒板属性を設定する (mk_token ("タッチパネル"), {w 更新タッチパネル. 位置を得る () |-
新タッチパネル });
            s局所黒板.更新黒板属性を設定する(mk_token ("ID端末"), {w 更新 ID端末. 位置を得る() |-> w 更
新 ID 端末 });
            def -= debug >= 5 => new IO().echo
                     (
                     "\n 利用者が、タッチパネルへ入力可能になりました。"^
                     VDMUtil'val2seq_of_char[利用者 * タッチパネル]
                         mk_(wID端末.s 利用者,w タッチパネル))<sup>*</sup>
                     "\n") in
            skip
         )
  );
13.2 ガードコマンド JD 端末 γ OK の update
 局所黒板のタッチパネル DB と ID 端末 DB とを大域黒板に設定する。
public
 update: 黒板 ==> ()
 update (a 大域黒板) ==
  def w 更新黒板属性 DB = s 局所黒板. 更新黒板属性を得る();
     w タッチパネル DB = w 更新黒板属性 DB (mk_token ("タッチパネル"));
     wID 端末 DB = w 更新黒板属性 DB (mk_token ("ID 端末")) in
  ( a 大域黒板.設定する (mk_token ("タッチパネル"), w タッチパネル DB);
     a 大域黒板.設定する (mk_token ("ID 端末"),wID 端末 DB)
  )
end
ガードコマンド_ID 端末 γ _OK
.....
  Test Suite:
             vdm.tc
```

Name	#Calls	Coverage
ガードコマンド_ID 端末 γ _OK'check	0	0%
ガードコマンド_ID 端末 γ _OK'update	0	0%

ガードコマンド_ID 端末 γ _OK

Class:

Name	#Calls	Coverage
ガードコマンド_ID 端末 γ _OK'ガードコマンド_ID 端末 γ _OK	0	0%
Total Coverage		0%

14 ガードコマンド_ID 端末 γ_OK_仮想世界

```
ID 端末γで利用者の認証が可だった場合の仮想世界用ガードコマンド。
ガードコマンド_ID 端末 γ_OK_仮想世界 is subclass of ガードコマンド_ID 端末
operations
public
 ガードコマンド_ID 端末 γ _OK_仮想世界: ID 端末 ==> ガードコマンド_ID 端末 γ _OK_仮想世界
 ガードコマンド_ID 端末 γ_OK_仮想世界 (an ID 端末) ==
  ( sID 端末 := anID 端末
  );
```

14.1 ガードコマンド_ID 端末 γ_OK_仮想世界の check

ID 端末が利用不可能で、かつ ID カードが正規の物であるならば、仮想世界で利用者がタッチパネルを使用 し終わり、出口へ移動したと仮定する。

.....

先 ID});

```
public
 check: 黒板 ==> ()
 check (a 大域黒板) ==
   ( def mk_(w 黒板属性 DB, w 更新黒板属性 DB) = a 大域黒板. 得る() in
      s 局所黒板.全属性を設定する (w 黒板属性 DB, w 更新黒板属性 DB);
      def mk_(w 黒板属性 DB,-) = s 局所黒板. 得る();
          w 仮想利用者のいる場所 DB = w 黒板属性 DB (mk_token ("仮想世界利用者居場所"));
          w 位置 = sID 端末. 位置を得る();
          wID 端末 DB = w 黒板属性 DB (mk_token ("ID 端末"));
          wID端末 = wID端末DB(w位置);
          w 仮想移動する利用者 = wID 端末.s 利用者;
          w ドア DB: map ドア 'ドア位置 to ドア 'ドア型 = w 黒板属性 DB (mk_token ("ドア"));
          \{mk_{-}(f,t)\} = \{mk_{-}(f,t) \mid mk_{-}(f,t) \text{ in set dom w } | \text{FT DB & f } = \text{w 位置 } \};
          w 仮想利用者の移動元 ID = f;
          w 仮想利用者の移動先 ID = t;
          w 仮想移動済利用者集合 = dom(w 仮想利用者のいる場所 DB :> {w 仮想利用者の移動
```

```
w 開くべきドア = w ドア DB (mk_ (w 仮想利用者の移動元 ID,t)) in
     if wID 端末. 利用可能である() and wID 端末. 正当な利用者から認証依頼された() and
       not 利用者集合に含まれている (w 仮想移動済利用者集合,w 仮想移動する利用者) and
       w 開くべきドア. 解錠されている()
     then (ある場所の利用者を次の場所へ移動させる
               (w 仮想利用者のいる場所 DB, w 仮想移動する利用者, w 仮想利用者の移動元 ID, w 仮
想利用者の移動先 ID.
               "仮想世界利用者居場所", "ガードコマンド_ID 端末 γ_OK_仮想世界",
               "利用者が認証され、タッチパネルが利用可能になったので、利用者がタッチパ
ネルを使用し終わり、出口へ移動したと仮定します。")
        )
  );
14.2 ガードコマンド_ID 端末 γ_OK_仮想世界の update
 局所黒板の仮想世界利用者居場所 DB を大域黒板に設定する。
public
 update: 黒板 ==> ()
 update(a 大域黒板) ==
  def w 更新黒板属性 DB = s 局所黒板. 更新黒板属性を得る();
     w 仮想世界利用者居場所 DB = w 更新黒板属性 DB (mk_token ("仮想世界利用者居場所")) in
  ( a 大域黒板.設定する (mk_token ("仮想世界利用者居場所"), w 仮想世界利用者居場所 DB)
  )
ガードコマンド_ID 端末 γ_OK_仮想世界
  Test Suite: vdm.tc
```

Name	#Calls	Coverage
ガードコマンド_ID 端末 γ _OK_仮想世界 'check	0	0%
ガードコマンド_ID 端末 γ _OK_仮想世界 'update	0	0%
ガードコマンド_ID 端末 γ _OK_仮想世界 'ガードコマンド_ID 端末 γ _OK_仮想世界	0	0%
Total Coverage		0%

ガードコマンド_ID 端末γ_OK_仮想世界

Class:

15 ガードコマンド_ID 端末 γ_NG

```
ID 端末 γ で利用者の認証が不可だった場合のガードコマンド。
ガードコマンド_ID 端末 γ _NG is subclass of ガードコマンド_ID 端末
operations
public
 ガードコマンド_ID 端末 γ_NG: ID 端末 ==> ガードコマンド_ID 端末 γ_NG
 ガードコマンド_ID 端末 γ_NG (an ID 端末) ==
  ( sID 端末 := anID 端末
  );
15.1 ガードコマンド_ID 端末 γ_NG の check
 ID 端末が利用不可能で、かつ ID カードが正規の物でないならば、ID 端末を利用可能にする。それ以外、
何もしない。
public
 check: 黒板 ==> ()
 check (a 大域黒板) ==
   ( def mk_(w 黒板属性 DB, w 更新黒板属性 DB) = a 大域黒板. 得る() in
     s 局所黒板.全属性を設定する (w 黒板属性 DB, w 更新黒板属性 DB);
     def mk_(w 黒板属性 DB,-) = s 局所黒板. 得る();
         w 位置 = sID 端末. 位置を得る();
         wID 端末 DB = w 黒板属性 DB (mk_token ("ID 端末"));
```

if wID 端末. 利用不可能である() and not wID 端末. 正当な利用者から認証依頼された()

then (dcl w 更新 ID 端末: ID 端末:= wID 端末. コピーする(w 位置);

wID 端末 = wID 端末 DB (w 位置) in

```
w 更新 ID 端末.利用可能にする();
            s局所黒板.更新黒板属性を設定する(mk_token ("ID端末"), {w 更新 ID端末. 位置を得る() |-> w 更
新 ID 端末 });
            def -= debug >= 5 => new IO().echo
                     "\n 利用者が、認証できませんでした。"^
                     VDMUtil'val2seq_of_char[利用者 * ID 端末]
                        mk_(wID端末.s利用者,wID端末))^
                     "\n") in
            skip
         )
  );
15.2 ガードコマンド ID 端末 γ NG の update
 局所黒板の ID 端末 DB を大域黒板に設定する。
 update: 黒板 ==> ()
update (a 大域黒板) ==
  def w 更新黒板属性 DB = s 局所黒板. 更新黒板属性を得る();
     wID 端末 DB = w 更新黒板属性 DB (mk_token ("ID 端末")) in
  ( a 大域黒板.設定する (mk_token ("ID 端末"), wID 端末 DB)
  )
end
ガードコマンド_ID 端末 γ_NG
......
  Test Suite:
             vdm.tc
```

Name	#Calls	Coverage
ガードコマンド ID 端末 γ NGʻcheck	0	0%
ガードコマンド_ID 端末 γ _NGʻupdate	0	0%
ガードコマンド ID 端末 γ NG'ガードコマンド ID 端末 γ NG	0	0%
Total Coverage		0%

ガードコマンド_ID 端末 γ _NG

Class:

16 ガードコマンド_センサークラス

```
センサーのガードコマンド。
ガードコマンド_センサー is subclass of ガードコマンド
instance variables
 public s 場所 ID: 場所グラフ '場所 ID;
operations
public
 ガードコマンド_センサー:場所グラフ '場所 ID ==> ガードコマンド_センサー
 ガードコマンド_センサー (a 場所 ID) ==
  ( s場所 ID := a場所 ID
  );
16.1 ガードコマンド_センサーの check
 センサーに反応がない場所に居るはずの利用者を、仮想世界利用者居場所 DB から削除する。
public
 check: 黒板 ==> ()
 check (a 大域黒板) ==
  ( def mk_(w 黒板属性 DB, w 更新黒板属性 DB) = a 大域黒板. 得る() in
     s 局所黒板.全属性を設定する (w 黒板属性 DB, w 更新黒板属性 DB);
     def mk_(w 黒板属性 DB,-) = s 局所黒板. 得る();
        w 利用者のいる場所 DB = w 黒板属性 DB (mk_token ("実際の利用者居場所"));
        w利用者の居場所 ID = s場所 ID;
         w センサー DB = w 黒板属性 DB (mk_token ("センサー"));
         w センサー = w センサー DB (w 利用者の居場所 ID);
         w 利用者の居場所 ID 集合 = w センサー. 人が居る位置を得る();
        w 利用者集合 = dom (w 利用者のいる場所 DB:> w 利用者の居場所 ID 集合) in
      ( dcl w 更新センサー: センサー:= w センサー. コピーする(w 利用者の居場所 ID);
```

```
if w 利用者集合 = {}
         then ( w 更新センサー.センサー検知状態を設定する (<人は居ない>);
                def -= debug >= 9 => new IO().echo
                          "\n センサーに反応がありませんでした。"^
                          VDMUtil'val2seq_of_char[map 利用者 to 場所グラフ '場所 ID]
                              w 利用者のいる場所 DB) ^
                          "\n") in
                skip
         else (
                w 更新センサー.センサー検知状態を設定する (<人が居る>);
                def - = debug >= 9 => new IO().echo
                          "\n センサーで、利用者を関知しました。"^
                          VDMUtil'val2seq_of_char[map 利用者 to 場所グラフ '場所 ID]
                              w 利用者のいる場所 DB) ^
                          "\n") in
                skip
         s局所黒板.更新黒板属性を設定する(mk_token ("センサー"), {w 更新センサー.ID を得る() |-> w 更
新センサー });
         skip
  );
16.2 ガードコマンド_センサーの update
 局所黒板のセンサー DB と仮想世界利用者居場所 DB を大域黒板に設定する。
public
 update: 黒板 ==> ()
 update(a 大域黒板) ==
  def w 更新黒板属性 DB = s 局所黒板. 更新黒板属性を得る();
      w センサー DB = w 更新黒板属性 DB (mk_token ("センサー"));
```

Class: ガードコマンド_センサー

Name	#Calls	Coverage
ガードコマンド_センサー 'check	0	0%
ガードコマンド_センサー 'update	0	0%
ガードコマンド_センサー'ガードコマンド_センサー	0	0%
Total Coverage		0%

17 ガードコマンド_センサークラス_仮想世界

```
センサーの仮想世界用ガードコマンド。
ガードコマンド_センサー_仮想世界 is subclass of ガードコマンド
instance variables
 public s 場所 ID: 場所グラフ '場所 ID;
operations
public
 ガードコマンド_センサー_仮想世界:場所グラフ '場所 ID ==> ガードコマンド_センサー_仮想世界
 ガードコマンド_センサー_仮想世界 (a 場所 ID) ==
  ( s場所 ID := a場所 ID
  );
17.1 ガードコマンド_センサー_仮想世界の check
 センサーに反応がない場所に居るはずの利用者を、仮想世界利用者居場所 DB から削除する。
public
 check: 黒板 ==> ()
 check (a 大域黒板) ==
  ( def mk_(w 黒板属性 DB, w 更新黒板属性 DB) = a 大域黒板. 得る() in
     s 局所黒板.全属性を設定する (w 黒板属性 DB, w 更新黒板属性 DB);
     def mk_(w 黒板属性 DB,-) = s 局所黒板. 得る();
        w 仮想利用者のいる場所 DB = w 黒板属性 DB (mk_token ("仮想世界利用者居場所"));
        w利用者の居場所 ID = s場所 ID;
         w センサー DB = w 黒板属性 DB (mk_token ("センサー"));
         w センサー = w センサー DB (w 利用者の居場所 ID);
         w 利用者の居場所 ID 集合 = w センサー. 人が居る位置を得る();
         w 仮想利用者集合 = dom (w 仮想利用者のいる場所 DB:> w 利用者の居場所 ID集合) in
     if w センサー. 人は居ない() and w 仮想利用者集合 <> {}
     then ( skip
         )
  ) :
```

17.2 ガードコマンド_センサー_仮想世界の update

局所黒板のセンサー DB と仮想世界利用者居場所 DB を大域黒板に設定する。

```
public
```

```
update: 黒板 ==> ()
update(a 大域黒板) ==
    def w 更新黒板属性 DB = s 局所黒板. 更新黒板属性を得る();
    w 仮想世界利用者居場所 DB = w 更新黒板属性 DB (mk_token("仮想世界利用者居場所")) in
    ( a 大域黒板.設定する (mk_token("仮想世界利用者居場所"), w 仮想世界利用者居場所 DB);
    skip
)
```

end

ガードコマンド_センサー_仮想世界

.....

Test Suite: vdm.tc

Class: ガードコマンド_センサー_仮想世界

Name	#Calls	Coverage
ガードコマンド_センサー_仮想世界 'check	0	0%
ガードコマンド_センサー_仮想世界 'update	0	0%
ガードコマンド_センサー_仮想世界 'ガードコマンド_センサー_仮想世界	0	0%
Total Coverage		0%

18 ガードコマンド_利用者クラス

```
利用者のガードコマンド。
ガードコマンド_利用者 is subclass of ガードコマンド
instance variables
 public s 場所 ID: 場所グラフ '場所 ID;
operations
public
 ガードコマンド_利用者:場所グラフ '場所 ID ==> ガードコマンド_利用者
 ガードコマンド_利用者 (a 場所 ID) ==
  ( s場所 ID := a場所 ID
  );
18.1 ガードコマンド_利用者の update
 局所黒板の実際の利用者居場所 DB と仮想世界利用者居場所 DB を大域黒板に設定する。
public
 update: 黒板 ==> ()
 update (a 大域黒板) ==
  def w 更新黒板属性 DB = s 局所黒板. 更新黒板属性を得る();
     w 更新利用者のいる場所 DB = w 更新黒板属性 DB (mk_token ("実際の利用者居場所"));
     w 更新仮想利用者のいる場所 DB = w 更新黒板属性 DB (mk_token ("仮想世界利用者居場所")) in
  ( a 大域黒板.設定する (mk_token ("実際の利用者居場所"),w 更新利用者のいる場所 DB);
     a 大域黒板.設定する (mk_token ("仮想世界利用者居場所"),w 更新仮想利用者のいる場所 DB);
     skip
  );
18.2 案内すべき利用者である
 移動する気になった、案内すべき利用者であるか判定する。
protected
```

案内すべき利用者である: 利用者 * set of 利用者 ==> bool 案内すべき利用者である (a 案内する利用者, a 利用者集合) ==

(if 利用者集合に含まれている (a 利用者集合, a 案内する利用者) and a 案内する利用者. 移動する気になった時間である

then return true else return false

end

)

ガードコマンド_利用者

.....

Test Suite: vdm.tc

Class: ガードコマンド_利用者

Name	#Calls	Coverage
ガードコマンド_利用者 'update	0	0%
ガードコマンド_利用者 'ガードコマンド_利用者	0	0%
ガードコマンド_利用者 '案内すべき利用者である	0	0%
Total Coverage		0%

19 ガードコマンド_利用者_認証

```
利用者が認証された場合を記述したガードコマンド。
ガードコマンド_利用者_認証 is subclass of ガードコマンド_利用者
operations
public
 ガードコマンド_利用者_認証:場所グラフ '場所 ID ==> ガードコマンド_利用者_認証
 ガードコマンド_利用者_認証 (a 場所 ID) ==
  ( s場所 ID := a場所 ID
  );
19.1 ガードコマンド_利用者_認証の check
 利用者の認証を ID 端末に依頼する。
 認証結果は、局所黒板の更新黒板属性に設定する。
.....
public
 check: 黒板 ==> ()
 check (a 大域黒板) ==
  ( def mk_(w 黒板属性 DB, w 更新黒板属性 DB) = a 大域黒板. 得る() in
     s 局所黒板.全属性を設定する (w 黒板属性 DB, w 更新黒板属性 DB);
     def mk_(w 黒板属性 DB,-) = s 局所黒板. 得る();
        w場所グラフ = s 局所黒板.s 場所グラフ;
        w 利用者のいる場所 DB = w 黒板属性 DB (mk_token ("実際の利用者居場所"));
        wID 端末 DB: map ID to ID 端末 = w 黒板属性 DB(mk_token("ID 端末"));
        w 利用者の居場所 ID = s 場所 ID;
        wID端末 = wID端末 DB(w利用者の居場所ID);
        w 利用者集合 = dom (w 利用者のいる場所 DB:> {w 利用者の居場所 ID}) in
     ( if w 利用者集合 = {}
        then return ;
        def {w 案内する利用者 } = w 利用者集合 in
        ( if w場所グラフ.ID端末がある(w利用者の居場所 ID) and not wID端末. 既に認証依頼している(w案
内する利用者)
           then ( dcl w 更新 ID 端末: ID 端末:= wID 端末. コピーする(w 利用者の居場
所 ID);
```

```
w 更新 ID 端末.認証依頼する (w 案内する利用者);
                    s 局所黒板.更新黒板属性を設定する (mk_token ("ID 端末"), {w 更新 ID 端末. 位置を得る () |-
新 ID 端末 });
                    def - = debug >= 5 => new IO().echo
                              "\n 利用者が、認証を依頼しました。"^
                              VDMUtil'val2seq_of_char[利用者 * ID 端末]
                                  mk_(w 案内する利用者,wID 端末))^
                              "\n") in
                    skip
         )
      )
  )
 pre let mk_(w 黒板属性 DB,-) = a 大域黒板. 得る(),
        w 利用者のいる場所 DB = w 黒板属性 DB (mk_token ("実際の利用者居場所")),
        w 利用者の居場所 ID = s 場所 ID,
        w 利用者集合 = dom (w 利用者のいる場所 DB :> {w 利用者の居場所 ID}) in
    card w 利用者集合 in set {0,1};
19.2 ガードコマンド_利用者_認証の update
 局所黒板の ID 端末 DB を大域黒板に設定する。
public
 update: 黒板 ==> ()
 update (a 大域黒板) ==
  def w 更新黒板属性 DB = s 局所黒板. 更新黒板属性を得る();
      w 更新 ID 端末 DB = w 更新黒板属性 DB (mk_token ("ID 端末")) in
   ( a 大域黒板.設定する (mk_token ("ID 端末"), w 更新 ID 端末 DB)
  )
end
ガードコマンド_利用者_認証
  Test Suite:
               vdm.tc
               ガードコマンド_利用者_認証
  Class:
```

Name	#Calls	Coverage
ガードコマンド_利用者_認証 'check	0	0%
ガードコマンド_利用者_認証 'update	0	0%
ガードコマンド_利用者_認証'ガードコマンド_利用者_認証	0	0%
Total Coverage		0%

20 ガードコマンド_利用者_認証_仮想世界

```
利用者が認証された場合を記述した仮想世界用ガードコマンド。
ガードコマンド_利用者_認証_仮想世界 is subclass of ガードコマンド_利用者
operations
public
 ガードコマンド_利用者_認証_仮想世界:場所グラフ '場所 ID ==> ガードコマンド_利用者_認証_仮想
世界
 ガードコマンド_利用者_認証_仮想世界 (a場所 ID) ==
  ( s場所 ID := a場所 ID
  ) :
20.1 ガードコマンド_利用者_認証_仮想世界の check
 利用者の認証を ID 端末に依頼する。
 認証結果は、更新黒板属性の仮想世界利用者居場所 DB に設定する。
public
 check: 黒板 ==> ()
 check (a 大域黒板) ==
  ( def mk_(w 黒板属性 DB, w 更新黒板属性 DB) = a 大域黒板. 得る() in
     s 局所黒板.全属性を設定する (w 黒板属性 DB, w 更新黒板属性 DB);
     def mk_(w 黒板属性 DB,-) = s 局所黒板. 得る();
        w場所グラフ = s 局所黒板.s 場所グラフ;
        w 仮想利用者のいる場所 DB = w 黒板属性 DB (mk_token ("仮想世界利用者居場所"));
        w 利用者のいる場所 DB = w 黒板属性 DB (mk_token ("実際の利用者居場所"));
        w 利用者の居場所 ID = s 場所 ID;
        w 利用者集合 = dom (w 利用者のいる場所 DB:> {w 利用者の居場所 ID});
```

```
w 仮想利用者集合 =
           dom (w 仮想利用者のいる場所 DB:> {w 利用者の居場所 ID}) in
     ( if w 利用者集合 = {}
        then return ;
        def {w 利用者} = w 利用者集合 in
        ( if w場所グラフ.ID端末がある(w利用者の居場所ID) and not利用者集合に含まれている(w仮
想利用者集合,w 利用者)
           then (s局所黒板.更新黒板属性を設定する(mk_token("仮想世界利用者居場所
"), {w 利用者 |-> w 利用者の居場所 ID});
                 def -= debug >= 5 => new IO().echo
                          "\n 実際の利用者が認証を依頼したので、仮想世界利用者居
場所に登録します。"^
                          VDMUtil'val2seq_of_char[利用者*場所グラフ'場
所 ID]
                              mk_(w 利用者,w 利用者の居場所 ID))^
                          "\n") in
                 skip
              )
        )
     )
  )
 pre let mk_(w 黒板属性 DB,-) = a 大域黒板. 得る(),
       w 利用者のいる場所 DB = w 黒板属性 DB (mk_token ("実際の利用者居場所")),
       w 利用者の居場所 ID = s 場所 ID,
       w 利用者集合 = dom (w 利用者のいる場所 DB :> {w 利用者の居場所 ID}) in
    card w 利用者集合 in set {0,1};
20.2 ガードコマンド_利用者_認証_仮想世界の update
 局所黒板の ID 端末 DB と仮想世界利用者居場所 DB を大域黒板に設定する。
......
public
 update: 黒板 ==> ()
 update (a 大域黒板) ==
  def w 更新黒板属性 DB = s 局所黒板. 更新黒板属性を得る();
```

w 更新仮想世界利用者居場所 DB = w 更新黒板属性 DB (mk_token ("仮想世界利用者居場所")) in (a 大域黒板.設定する (mk_token ("仮想世界利用者居場所"), w 更新仮想世界利用者居場所 DB))

end

ガードコマンド_利用者_認証_仮想世界

.....

Test Suite: vdm.tc

Class: ガードコマンド_利用者_認証_仮想世界

Name	#Calls	Coverage
ガードコマンド_利用者_認証_仮想世界 'check	0	0%
ガードコマンド_利用者_認証_仮想世界 'update	0	0%
ガードコマンド_利用者_認証_仮想世界'ガードコマンド_利用者_認証_仮想世界	0	0%
Total Coverage		0%

21 ガードコマンド_利用者_ドアを開ける

```
利用者がドアを開けるガードコマンド。
ガードコマンド_利用者_ドアを開ける is subclass of ガードコマンド_利用者
operations
public
 ガードコマンド_利用者_ドアを開ける:場所グラフ '場所 ID ==> ガードコマンド_利用者_ドアを開ける
 ガードコマンド_利用者_ドアを開ける(a場所 ID) ==
  ( s場所 ID := a場所 ID
  );
21.1 ガードコマンド_利用者_ドアを開ける、の check
 移動先へのドアが解錠されているならば、ドアを開ける。
 ドアを開けた結果は、局所黒板の更新黒板属性に設定する。
.....
public
 check: 黒板 ==> ()
 check (a 大域黒板) ==
  ( def mk_(w 黒板属性 DB, w 更新黒板属性 DB) = a 大域黒板. 得る() in
     s 局所黒板.全属性を設定する (w 黒板属性 DB, w 更新黒板属性 DB);
     def mk_(w 黒板属性 DB,-) = s 局所黒板. 得る();
        w場所グラフ = s 局所黒板.s 場所グラフ;
        w 利用者のいる場所 DB = w 黒板属性 DB (mk_token ("実際の利用者居場所"));
        w 利用者の居場所 ID = s 場所 ID;
        w 利用者集合 = dom (w 利用者のいる場所 DB :> {w 利用者の居場所 ID});
        移動可能場所集合 =
          w場所グラフ. 移動可能場所を得る(s場所 ID);
        {w 利用者の移動先場所 ID} = 移動可能場所集合;
        w ドア位置 = mk_(w 利用者の居場所 ID, w 利用者の移動先場所 ID);
        w ドア DB: map ドア 'ドア位置 to ドア 'ドア型 = w 黒板属性 DB (mk_token ("ドア"));
```

```
w開くべきドア=wドアDB(wドア位置)in
     ( if w 利用者集合 = {}
        then return ;
        let {w 利用者 } = w 利用者集合 in
        if w 開くべきドア. 解錠されている() and w 開くべきドア. 閉まっている()
        then ( dcl w 更新開くべきドア: ドア:= w 開くべきドア. コピーする (w ドア位置);
                w 更新開くべきドア.開ける();
                s 局所黒板.更新黒板属性を設定する (mk_token ("ドア"), {mk_(w利用者の居場
所 ID, w 利用者の移動先場所 ID) |-> w 更新開くべきドア });
                def -= debug >= 5 => new IO().echo
                         "\n 利用者が、ドアを開けました。"^
                         VDMUtil'val2seq_of_char[利用者 * 場所グラフ'場所 ID * 場
所グラフ '場所 ID]
                            (
                             mk_(w 利用者,w 利用者の居場所 ID,w 利用者の移動先場
所 ID))^
                         "\n") in
                skip
     )
  )
 pre let mk_(w 黒板属性 DB,-) = a 大域黒板. 得る(),
       w場所グラフ = s 局所黒板.s 場所グラフ,
       移動可能場所集合 = w 場所グラフ. 移動可能場所を得る (s 場所 ID),
       w 利用者のいる場所 DB = w 黒板属性 DB (mk_token ("実際の利用者居場所")),
       w利用者の居場所 ID = s場所 ID,
       w 利用者集合 = dom (w 利用者のいる場所 DB :> {w 利用者の居場所 ID}) in
    card 移動可能場所集合 = 1 and
    card w 利用者集合 in set {0,1};
21.2 ガードコマンド_利用者_ドアを開ける、の update
 局所黒板の利用者の居る場所 DB を大域黒板に設定する。
public
 update: 黒板 ==> ()
 update (a 大域黒板) ==
  def w 更新黒板属性 DB = s 局所黒板. 更新黒板属性を得る();
```

```
w ドア DB = w 更新黒板属性 DB (mk_token ("ドア")) in ( a 大域黒板.設定する (mk_token ("ドア"), w ドア DB)
```

end

ガードコマンド_利用者_ドアを開ける

......

Test Suite: vdm.tc

Class: ガードコマンド_利用者_ドアを開ける

Name	#Calls	Coverage
ガードコマンド_利用者_ドアを開ける 'check	0	0%
ガードコマンド_利用者_ドアを開ける 'update	0	0%
ガードコマンド_利用者_ドアを開ける'ガードコマンド_利用者_ドアを開ける	0	0%
Total Coverage		0%

22 ガードコマンド_利用者_ドアを閉める

```
利用者がドアを閉めるガードコマンド。
ガードコマンド_利用者_ドアを閉める is subclass of ガードコマンド_利用者
operations
public
 ガードコマンド_利用者_ドアを閉める:場所グラフ '場所 ID ==> ガードコマンド_利用者_ドアを閉める
 ガードコマンド_利用者_ドアを閉める(a場所 ID) ==
  ( s場所 ID := a場所 ID
  );
22.1 ガードコマンド_利用者_ドアを閉める、の check
 移動先へのドアが解錠されているならば、ドアを閉める。
 ドアを開けた結果と、利用者が前にいた場所を設定した結果は、局所黒板の更新黒板属性に設定する。
.....
public
 check: 黒板 ==> ()
 check (a 大域黒板) ==
  ( def mk_(w 黒板属性 DB, w 更新黒板属性 DB) = a 大域黒板. 得る() in
     s 局所黒板.全属性を設定する (w 黒板属性 DB, w 更新黒板属性 DB);
     def mk_(w 黒板属性 DB,-) = s 局所黒板. 得る();
        w 利用者のいる場所 DB = w 黒板属性 DB (mk_token ("実際の利用者居場所"));
       w利用者の居場所 ID = s場所 ID;
       w 利用者集合 = dom (w 利用者のいる場所 DB:> {w 利用者の居場所 ID}) in
     ( if w 利用者集合 = {}
       then return ;
        def w 利用者 = 利用者 '到着時間が一番早い利用者を選ぶ (w 利用者集合) in
        ( if w 利用者. 移動していない()
          then return ;
          def w 利用者の異動元場所 = w 利用者. 前にいた場所を得る();
```

```
w ドア DB: map ドア 'ドア位置 to ドア 'ドア型 = w 黒板属性 DB (mk_token ("ド
ア")) in
            ( if w利用者の異動元場所 = w利用者の居場所 ID
               then return ;
               def w 閉めるべきドア = w ドア DB (mk_ (w 利用者の異動元場所, w 利用者の居場
所 ID)) in
               if w 閉めるべきドア. 開いている()
               then ( dcl w 更新閉めるべきドア: ドア:= w 閉めるべきドア. コピーする (mk_(w 利
用者の異動元場所、w 利用者の居場所 ID)),
                         w 更新利用者: 利用者:= w 利用者. コピーする ("ガードコマン
ド_利用者_ドアを閉める");
                     w 更新閉めるべきドア.閉める();
                      w 更新閉めるべきドア.施錠する();
                      w 更新利用者.前にいた場所を設定する (nil);
                      s 局所黒板.更新黒板属性を設定する (mk_token ("ドア"), {mk_(w利用
者の異動元場所,w利用者の居場所 ID) |-> w 更新閉めるべきドア });
                      s 局所黒板.更新黒板属性を設定する (mk_token ("実際の利用者居場所
"), {w 更新利用者 |-> w 利用者の居場所 ID});
                      def -= debug >= 5 => new IO().echo
                               "\n 利用者が、ドアを閉めました。"^
                               VDMUtil'val2seq_of_char[利用者 * 場所グラフ '場
所 ID * 場所グラフ '場所 ID]
                                   mk_(w利用者,w利用者の異動元場所,w利用者の居
場所 ID))^
                               "\n") in
                      skip
                   )
            )
        )
     )
  ) :
```

22.2 ガードコマンド_利用者_ドアを閉める、の update

局所黒板の利用者の居る場所 DB とドア DB を大域黒板に設定する。

.....

public

```
update: 黒板 ==> ()

update (a 大域黒板) ==

def w 更新黒板属性 DB = s 局所黒板. 更新黒板属性を得る();

w 更新ドア DB = w 更新黒板属性 DB (mk_token ("ドア"));

w 更新利用者のいる場所 DB = w 更新黒板属性 DB (mk_token ("実際の利用者居場所")) in

( a 大域黒板.設定する (mk_token ("ドア"), w 更新ドア DB);

a 大域黒板.設定する (mk_token ("実際の利用者居場所"), w 更新利用者のいる場所 DB);

skip

)
end

ガードコマンド_利用者_ドアを閉める

Test Suite: vdm.tc
```

Name	#Calls	Coverage
ガードコマンド_利用者_ドアを閉める 'check	0	0%
ガードコマンド_利用者_ドアを閉める 'update	0	0%
ガードコマンド_利用者_ドアを閉める 'ガードコマンド_利用者_ドアを閉める	0	0%
Total Coverage		0%

ガードコマンド_利用者_ドアを閉める

Class:

23 ガードコマンド 利用者案内有移動クラス

```
利用者が案内されて移動するガードコマンド。
ガードコマンド_利用者案内有移動 is subclass of ガードコマンド_利用者
operations
public
 ガードコマンド_利用者案内有移動:場所グラフ '場所 ID ==> ガードコマンド_利用者案内有移動
 ガードコマンド_利用者案内有移動 (a 場所 ID) ==
  ( s場所 ID := a場所 ID
  );
```

23.1 ガードコマンド_利用者案内有移動の check

場所に案内表示装置があれば、案内表示に従って移動する。ある時間、案内表示に従わないこともある。ま た、すでに移動した利用者の案内表示が残っているので、案内する利用者が適切かどうかチェックしている。 移動結果は、局所黒板の更新黒板属性に設定する。

```
public
```

```
check: 黒板 ==> ()
check (a 大域黒板) ==
 ( def mk_(w 黒板属性 DB, w 更新黒板属性 DB) = a 大域黒板. 得る() in
    s 局所黒板.全属性を設定する (w 黒板属性 DB, w 更新黒板属性 DB);
    def mk_(w 黒板属性 DB,-) = s 局所黒板. 得る();
        w場所グラフ = s 局所黒板.s 場所グラフ;
        w 利用者のいる場所 DB = w 黒板属性 DB (mk_token ("実際の利用者居場所"));
        w利用者の居場所 ID = s場所 ID;
        w 利用者集合 = dom (w 利用者のいる場所 DB:> {w 利用者の居場所 ID}) in
     ( if w 利用者集合 = {}
       then return ;
        if w場所グラフ. 案内表示装置がある(w利用者の居場所 ID)
        then ( def w 案内表示 DB = w 黒板属性 DB (mk_token ("案内表示")) in
               if w利用者の居場所 ID in set dom w 案内表示 DB
               then def w 案内表示 = w 案内表示 DB (w 利用者の居場所 ID);
                      w 利用者の移動先場所 ID = w 案内表示.s ガイドする場所 ID;
                      w 移動する利用者 = w 案内表示.s 案内する利用者;
                      w ドア位置 = mk_(w 利用者の居場所 ID, w 利用者の移動先場所 ID);
```

w ドア DB: map ドア 'ドア位置 to ドア 'ドア型 = w 黒板属性 DB (mk_token (" ドア")); w開くべきドア=wドアDB(wドア位置)in (**if** w 開くべきドア. 通過可能である() **and** w場所グラフ. 利用者が移動可能である(w 利用者のいる場 所 DB, w 利用者の移動先場所 ID) and 案内すべき利用者である(w移動する利用者,w利用者集合) and w移動する利用者.移動する気になった時間である() then (ある場所の利用者を次の場所へ移動させる (w 利用者のいる場所 DB, w 移動する利用者, w 利用者 の居場所 ID,w 利用者の移動先場所 ID, "実際の利用者居場所", "ガードコマンド_利用者案内 有移動", "利用者が、案内表示に従って移動しました。"))))) end

ガードコマンド_利用者案内有移動

Test Suite: vdm.tc

Class: ガードコマンド_利用者案内有移動

Name	#Calls	Coverage
ガードコマンド_利用者案内有移動 'check	0	0%
ガードコマンド_利用者案内有移動 'ガードコマンド_利用者案内有移動	0	0%
Total Coverage		0%

24 ガードコマンド 利用者案内無し移動クラス

利用者が案内されずに移動するガードコマンド。 ガードコマンド_利用者案内無し移動 is subclass of ガードコマンド_利用者 operations public ガードコマンド_利用者案内無し移動:場所グラフ '場所 ID ==> ガードコマンド_利用者案内無し移動 ガードコマンド_利用者案内無し移動 (a 場所 ID) == (s場所 ID := a場所 ID);

24.1 ガードコマンド_利用者案内無し移動の check

場所に案内表示装置が無ければ、移動可能な場所の一つに移動する。この場合の、ある時間、移動しないこ とがあり得る。

移動結果は、局所黒板の更新黒板属性に設定する。

```
public
```

```
check: 黒板 ==> ()
 check (a 大域黒板) ==
  ( def mk_(w 黒板属性 DB, w 更新黒板属性 DB) = a 大域黒板. 得る() in
     s 局所黒板.全属性を設定する (w 黒板属性 DB, w 更新黒板属性 DB);
     def mk_(w 黒板属性 DB,-) = s 局所黒板. 得る();
         w場所グラフ = s 局所黒板.s 場所グラフ;
         移動可能場所集合 = w 場所グラフ. 移動可能場所を得る (s 場所 ID);
         w 利用者のいる場所 DB = w 黒板属性 DB (mk_token ("実際の利用者居場所"));
         w 利用者の居場所 ID = s 場所 ID;
         w 利用者集合 = dom (w 利用者のいる場所 DB:> {w 利用者の居場所 ID}) in
      ( if w 利用者集合 = {}
        then return ;
         let w 利用者の移動先場所 ID = w 場所グラフ. 気まぐれに次の移動場所を得る(移動可能場
所集合) in
         def w 移動する利用者 = 利用者 '到着時間が一番早い利用者を選ぶ(w 利用者集合):
            wドア位置 = mk_(w 利用者の居場所 ID, w 利用者の移動先場所 ID);
            w ドア DB = w 黒板属性 DB (mk_token ("ドア"));
```

w開くべきドア=wドアDB(wドア位置) in

(if not w 場所グラフ. 案内表示装置がある (w 利用者の居場所 ID) and

w 開くべきドア. 通過可能である() and

w場所グラフ. 利用者が移動可能である (w利用者のいる場所 DB, w利用者の移動先場

所 ID) and

w移動する利用者.移動する気になった時間である()

then (ある場所の利用者を次の場所へ移動させる

(w利用者のいる場所 DB, w 移動する利用者, w 利用者の居場所 ID, w 利用

者の移動先場所 ID,

"実際の利用者居場所", "ガードコマンド_利用者案内無し移動", "利用

```
者が、移動しました。")
)
)
)
)
```

end

ガードコマンド_利用者案内無し移動

......

Test Suite: vdm.tc

Class: ガードコマンド_利用者案内無し移動

Name	#Calls	Coverage
ガードコマンド_利用者案内無し移動 'check	0	0%
ガードコマンド_利用者案内無し移動 'ガードコマンド_利用者案内無し移動	0	0%
Total Coverage		0%

25 案内表示クラス

```
class
案内表示 is subclass of オブジェクト
instance variables
 public s 案内表示 ID: 場所グラフ '場所 ID;
 public s 案内する利用者: 利用者;
 public s ガイドする場所 ID: 場所グラフ '場所 ID;
operations
public
 案内表示:場所グラフ '場所 ID * 利用者 * 場所グラフ '場所 ID ==> 案内表示
 案内表示 (a 案内表示 ID, a 利用者, a 場所 ID) ==
  ( s 案内表示 ID := a 案内表示 ID;
      s 案内する利用者:= a 利用者;
      s ガイドする場所 ID := a 場所 ID
  );
public
 ID を得る:() ==> 利用者 '利用者 ID
 ID を得る() ==
  return s 案内表示 ID
end
案内表示
```

26 ID カードクラス

```
class
ID カード is subclass of オブジェクト
types
 public ID カード ID = ID;
 public ID カード状態 = <有効> | <無効>
instance variables
 public sID カード ID: ID カード ID;
 public sID カード状態: ID カード状態:= <無効>;
operations
public
 ID カード: ID カード ID * ID カード状態 ==> ID カード
 ID カード (aID カード ID, aID カード状態) == atomic
   ( sID \, \mathcal{D} - \mathcal{F} \, ID := aID \, \mathcal{D} - \mathcal{F} \, ID;
       sID カード状態 := aID カード状態
   );
public
 ID を得る: () ==> ID カード ID
 ID を得る() ==
   return sID カード ID;
public
 有効にする:() ==>()
 有効にする() ==
   sID カード状態 := <有効>;
public
 有効である:() ==> bool
 有効である() ==
   return sID カード状態 = <有効>;
public
 無効にする:() ==>()
 無効にする() ==
   sID カード状態 := <無効>
end
ID カード
```

27 ID 端末クラス

```
class
ID 端末 is subclass of オブジェクト
types
 public ID端末位置 = 場所グラフ '場所 ID;
 public ID 端末状態 = <利用可能> | <利用不可能>;
 public 端末型 = <α> | <β> | <γ>
instance variables
 public sID 端末位置: ID 端末位置;
 public s 端末型:端末型;
 public sID 端末状態: ID 端末状態:= <利用可能>;
 public s 利用者: [利用者] := nil;
operations
public
 ID 端末: ID 端末位置 * 端末型 ==> ID 端末
 ID 端末 (aID 端末位置, a 端末型) == atomic
   ( sID 端末位置 := aID 端末位置;
      s 端末型 := a 端末型
  );
public
 ID 端末: ID 端末位置 * 端末型 * ID 端末状態 * [利用者] ==> ID 端末
 ID 端末 (aID 端末位置, a 端末型, aID 端末状態, a 利用者) == atomic
   ( sID 端末位置 := aID 端末位置:
      s 端末型 := a 端末型;
      sID 端末状態:= aID 端末状態;
      s 利用者 := a 利用者
  );
public
 コピーする: ID 端末位置 ==> ID 端末
 コピーする (aID 端末位置) ==
   ( return new ID 端末 (aID 端末位置, s 端末型, sID 端末状態, s 利用者)
  );
public
```

```
認証依頼する:利用者 ==> ()
 認証依頼する(a利用者) ==
   ( 利用不可能にする();
     s 利用者 := a 利用者
  );
public
 既に認証依頼している:利用者 ==> bool
 既に認証依頼している(a利用者) ==
  return s 利用者 <> nil and a 利用者.ID を得る() = s 利用者.ID を得る();
public
 認証依頼された:() ==> bool
 認証依頼された() ==
  return s 利用者 <> nil;
public
 正当な利用者から認証依頼された:() ==> bool
 正当な利用者から認証依頼された() ==
  return 認証依頼された() and s 利用者. 有効な ID を持っている();
public
 利用不可能にする:() ==>()
 利用不可能にする() ==
  sID 端末状態 := <利用不可能>;
public
 利用可能にする:() ==>()
 利用可能にする() ==
  sID 端末状態 := <利用可能>;
public
 利用可能である:() ==> bool
 利用可能である() ==
  return sID 端末状態 = <利用可能>;
public
 利用不可能である:() ==> bool
 利用不可能である() ==
  return sID 端末状態 = <利用不可能>;
public
 位置を得る:() ==> ID 端末位置
 位置を得る() ==
  return sID 端末位置;
public
```

ID を得る: () ==> ID 端末位置 ID を得る() ==

return 位置を得る()

end

ID 端末

.....

28 場所グラフクラス

利用者が居る場所のグラフである。 class 場所グラフ is subclass of オブジェクト values public 外部の場所の最大許容人数 = 3; public 案内表示を見る場所の最大許容人数 = 2; public ひとりだけ = 1; public 案内可能な場所集合 = {4,7} types public 場所 ID = ID inv w 場所 ID == w 場所 ID in set $\{0, ..., 9\}$; public 場所 = <外部> | <前室> | <閲覧室 A> | <閲覧室 B>; public 場所情報::場所:場所 許容人数:nat; public 場所 DB = map 場所 ID to 場所情報; public 利用者のいる場所 DB = map 利用者 to 場所 ID 28.1 インスタンス変数 s場所 DB s場所 DBは、ある場所と対応する場所の情報を持つ。 instance variables

```
s 場所 DB : 場所 DB := {
             0 |-> mk_場所情報 (<外部>,外部の場所の最大許容人数),
             1 |-> mk_場所情報 (<外部>, ひとりだけ),
             2 |-> mk_場所情報 (<前室>,案内表示を見る場所の最大許容人数),
             3 |-> mk_場所情報 (<前室>, ひとりだけ),
             4 |-> mk_場所情報 (<前室>, ひとりだけ),
             5 |-> mk_場所情報 (<閲覧室 A>, ひとりだけ),
             6 |-> mk_場所情報 (<閲覧室 A>, ひとりだけ),
             7 |-> mk_場所情報 (<前室>, ひとりだけ),
             8 |-> mk_場所情報 (<閲覧室 B>, ひとりだけ),
             9 |-> mk_場所情報 (<閲覧室 B>, ひとりだけ)};
28.2 インスタンス変数 s 移動可能場所集合
 s 移動可能場所集合は、ある場所から移動できる先の場所の集合を持つ。
public
s 移動可能場所集合: map 場所 ID to set of 場所 ID := {
                    0 |-> {1},
                    1 |-> {2},
                    2 \mid -> \{3,4,7\},
                    3 \mapsto \{0\},
                    4 |-> {5},
                    5 |-> {6},
                    6 |-> {2},
                    7 |-> {8},
                    8 |-> {9},
                    9 |-> {2}};
28.3 構成子
operations
public
```

```
場所グラフ:場所 DB * map 場所 ID to set of 場所 ID ==> 場所グラフ
 場所グラフ (a場所 DB, a移動可能場所集合) == atomic
  ( s場所 DB := a場所 DB;
     s 移動可能場所集合 := a 移動可能場所集合
  ) :
28.4 場所に関する操作群
public
 案内可能な次の場所 ID を得る:利用者のいる場所 DB ==> [場所 ID]
 案内可能な次の場所 ID を得る (a 利用者のいる場所 DB) ==
  ( def w 案内可能な場所集合 = 場所グラフ '案内可能な場所集合 in
     return 案内可能な次の場所 ID を得る補助 (a 利用者のいる場所 DB, w 案内可能な場所集合)
  );
public
 案内可能な次の場所 ID を得る補助: 利用者のいる場所 DB * set of 場所 ID ==> [場所 ID]
 案内可能な次の場所 ID を得る補助 (a 利用者のいる場所 DB. a 場所 ID 集合) ==
  ( if a 場所 ID 集合 = {}
     then return nil:
     def w場所 = 気まぐれに次の移動場所を得る(a場所 ID集合) in
     if 利用者が移動可能である(a利用者のいる場所DB,w場所)
     then return w 場所
     else return 案内可能な次の場所 ID を得る補助 (a 利用者のいる場所 DB.a 場所 ID 集合
\ {w 場所 })
  );
public
 移動可能な次の場所 ID を得る:利用者のいる場所 DB * 場所 ID ==> [場所 ID]
 移動可能な次の場所 ID を得る (a 利用者のいる場所 DB, a 居場所 ID) ==
  ( for all w 次の場所 ID 候補 in set s 移動可能場所集合 (a 居場所 ID)
     do if 利用者が移動可能である (a 利用者のいる場所 DB、w 次の場所 ID 候補)
        then return w 次の場所 ID 候補
        else skip;
     return nil
 pre a 居場所 ID in set dom s 移動可能場所集合;
public
```

```
次の場所 ID を得る:場所 ID ==> 場所 ID
 次の場所 ID を得る (a 場所 ID) ==
   ( def w 次の場所 ID 候補集合 = s 移動可能場所集合 (a 場所 ID) in
     let s 場所 ID in set w 次の場所 ID 候補集合 in
     return s 場所 ID
 pre a 場所 ID in set dom s 移動可能場所集合 and
    let w 次の場所 ID 候補集合 = s 移動可能場所集合 (a 場所 ID) in
    w 次の場所 ID 候補集合 <> {};
public
 利用者のいる場所 ID を得る:利用者のいる場所 DB * 利用者 ==> 場所 ID
 利用者のいる場所 ID を得る (a 利用者のいる場所 DB, a 利用者) ==
   ( def w 居場所集合 = rng ({a 利用者 } <: a 利用者のいる場所 DB) in
     let {e} = w 居場所集合 in
     return e
  )
 pre let w 居場所集合 = rng ({a 利用者 } <: a 利用者のいる場所 DB) in
     exists e in set w 居場所集合 & {e} = w 居場所集合;
public
 ある場所の許容人数を得る:場所 ID ==> nat
 ある場所の許容人数を得る(a場所 ID) ==
   ( let mk_場所情報 (-.w 許容人数) = s 場所 DB (a 場所 ID) in
     return w 許容人数
  );
public
 ある場所の人数を得る:利用者のいる場所 DB * 場所 ID ==> nat
 ある場所の人数を得る (a 利用者のいる場所 DB, a 場所 ID) ==
   ( return card ある場所の利用者集合を得る(a利用者のいる場所DB,a場所ID)
  );
public
 ある場所の利用者集合を得る:利用者のいる場所 DB * 場所 ID ==> set of 利用者
 ある場所の利用者集合を得る (a 利用者のいる場所 DB, a 場所 ID) ==
  ( return dom (a利用者のいる場所 DB:> {a場所 ID})
  ) :
public
```

```
移動可能場所を得る:場所 ID ==> set of 場所 ID
 移動可能場所を得る(a場所 ID) ==
   ( return s 移動可能場所集合 (a 場所 ID)
 pre a 場所 ID in set dom s 移動可能場所集合;
public
 案内表示装置がある:場所 ID ==> bool
 案内表示装置がある (a 場所 ID) ==
   ( return a 場所 ID = 2
  );
public
 ID端末がある:場所ID ==> bool
 ID 端末がある (a 場所 ID) ==
   ( return a 場所 ID in set \{1, 4, 5, 7, 8\}
  );
public
 利用者が移動可能である:利用者のいる場所 DB * 場所 ID ==> bool
 利用者が移動可能である (a 利用者のいる場所 DB, a 次の場所 ID) ==
  def w 許容人数 = ある場所の許容人数を得る (a 次の場所 ID);
      w 人数 = ある場所の人数を得る (a 利用者のいる場所 DB, a 次の場所 ID) in
  if w人数 < w許容人数
  then return true
  else return false;
public static
 気まぐれに次の移動場所を得る: set of 場所 ID ==> 場所 ID
 気まぐれに次の移動場所を得る(a場所 ID集合) ==
   ( def 移動場所候補列 = VDMUtil'set2seq[場所 ID] (a 場所 ID 集合);
         w 乱数 = MATH'rand (card a 場所 ID 集合);
         wVDMJ を考慮した乱数 = if w 乱数 = -1
                          then 0
                          else w 乱数;
         w 添字 = wVDMJ を考慮した乱数 + 1;
```

Class:

場所グラフ

```
w移動先=
              移動場所候補列(w添字) in
       ( def -=
                  debug \geq 9 \Rightarrow \text{new IO}().\text{echo}
                      (
                       "\n「気まぐれに次の移動場所を得る」で生成された乱数と rand の引数 = "^{\circ}
                       VDMUtil'val2seq_of_char[int * int] (mk_ (w 乱数, card a 場所 ID 集合
))^
                       "\n") in
          return w移動先
       )
   )
 pre a 場所 ID 集合 <> {}
end
場所グラフ
  Test Suite:
                vdm.tc
```

Name	#Calls	Coverage
場所グラフ '場所グラフ	0	0%
場所グラフ 'ID 端末がある	0	0%
場所グラフ '案内表示装置がある	0	0%
場所グラフ '次の場所 ID を得る	0	0%
場所グラフ '移動可能場所を得る	0	0%
場所グラフ 'ある場所の人数を得る	0	0%
場所グラフ '利用者が移動可能である	0	0%
場所グラフ 'ある場所の許容人数を得る	0	0%
場所グラフ 'ある場所の利用者集合を得る	0	0%
場所グラフ '利用者のいる場所 ID を得る	0	0%
場所グラフ '案内可能な次の場所 ID を得る	0	0%
場所グラフ '気まぐれに次の移動場所を得る	0	0%
場所グラフ '移動可能な次の場所 ID を得る	0	0%
場所グラフ '案内可能な次の場所 ID を得る補助	0	0%
Total Coverage		0%

29 オブジェクトクラス

class
オブジェクト is subclass of 共通定義
types
public オブジェクト型 = token
instance variables
public static s 現在時間: 時間 := 0;
end
オブジェクト

30 スケジューラクラス

```
class
スケジューラ is subclass of オブジェクト
operations
public
 doOneCycle: 黒板 * set of ガードコマンド ==> ()
 doOneCycle (a 大域黒板, a ガードコマンド集合) ==
   ( for all a ガードコマンド in set a ガードコマンド集合
      do ( def -=
                   debug >= 8 \Rightarrow new IO().echo
                       "\n ガードコマンド check。"^
                       VDMUtil'val2seq_of_char[時間 * ガードコマンド] (mk_ (s 現在時間
,aガードコマンド))^
                       "\n") in
            a ガードコマンド.check(a 大域黒板)
         ) :
      for all a ガードコマンド in set a ガードコマンド集合
      do ( def -=
                   debug >= 8 \Rightarrow new IO().echo
                       "\n j" update."
                       VDMUtil'val2seq_of_char[時間 * ガードコマンド] (mk_(s 現在時間
,aガードコマンド))^
                       "\n") in
            a ガードコマンド.update(a 大域黒板)
         ) ;
      def -=
             debug >= 5 => new IO().echo
                 "\n 現在時間 = "^
                 VDMUtil'val2seq_of_char[時間](s 現在時間)^
                 "のすべてのガードコマンド update を完了しました。\n") in
      skip
   )
end
スケジューラ
```

	[81 / 111]

31 センサークラス

```
class
センサー is subclass of オブジェクト
types
 public センサー検知状態 = <人が居る> | <人は居ない>;
 public 人が居る位置 = set of 場所グラフ '場所 ID
instance variables
 public s センサー ID: ID;
 public s 人が居る位置: 人が居る位置;
 public s センサー検知状態: センサー検知状態:= <人は居ない>;
operations
public
 センサー: ID * 人が居る位置 * センサー検知状態 ==> センサー
 センサー (anID, a 人が居る位置, a センサー検知状態) == atomic
  ( sセンサー ID := anID;
     s 人が居る位置:= a 人が居る位置;
     s センサー検知状態 := a センサー検知状態
  );
public
 コピーする: ID ==> センサー
 コピーする (anID) ==
  return new センサー (anID, s 人が居る位置, s センサー検知状態);
public
 人が居る位置を得る:() ==> 人が居る位置
 人が居る位置を得る() ==
  return s 人が居る位置;
public
 センサー検知状態を設定する:センサー検知状態 ==> ()
 センサー検知状態を設定する(a センサー検知状態) ==
  s センサー検知状態 := a センサー検知状態;
public
 人は居ない:() ==> bool
 人は居ない()==
  return s センサー検知状態 = <人は居ない>;
public
```

```
ID を得る: () ==> ID
ID を得る() ==
return s センサー ID
end
センサー
```

32 TestApp クラス

```
class
TestApp
operations
public static
 Execute : () ==> ()
 Execute() ==
   ( dcl ts: TestSuite := new TestSuite();
      ts.AddTest(new TestCaseST0009 ("TestCaseST0009: 利用者の一人が場所 4 で認証されてい
ない。"));
      ts.AddTest(new TestCaseST0007 ("TestCaseST0007: 利用者 3 人が場所 0 から、順次、気ま
ぐれに移動する"));
      ts.AddTest(new TestCaseST0006 ("TestCaseST0006: 利用者 1 人が場所 7 から、気まぐれに
移動する"));
      ts.AddTest(new TestCaseST0005 ("TestCaseST0005: 利用者 3 人が場所 1, 4,7 から、それ
ぞれ認証されて気まぐれに移動する"));
      ts.AddTest(new TestCaseST0004 ("TestCaseST0004: 案内表示に従って利用者 2 人が、場
所 2 から 4 または 7 へ移動する"));
      ts.AddTest(new TestCaseST0003 ("TestCaseST0003:利用者 3 人が場所 1, 4,7 から、それ
ぞれ 2, 5, 8 へ認証されて移動し、ドアを閉める"));
      ts.AddTest(new TestCaseST0002("TestCaseST0002:利用者が場所1から2へ認証されて移
動し、ドアを閉める"));
      ts.AddTest(new TestCaseST0001 ("TestCaseST0001: 案内無しに利用者が場所 0 から 1 へ移
動する"));
      ts.Run()
  )
end
TestApp
```

33 TestCaseS クラス

.....

class

TestCaseS is subclass of TestCase,オブジェクト
instance variables
protected s スケジューラ: スケジューラ := new スケジューラ();

```
protected s 大域黒板: 黒板:= new 黒板({
                        mk_token ("実際の利用者居場所") |-> { |-> },
                        mk_token ("仮想世界利用者居場所") |-> { |-> },
                        mk_token("案内表示") |-> { |-> },
                        mk_token("ドア") |->
                         {mk_(0,1) |-> new 仮想ドア(mk_(0,1)),
                         mk_{-}(1,2) |-> new 入口ドア (mk_{-}(1,2), <ロック>, <閉>),
                         mk_(2,3) |-> new 仮想ドア(mk_(2,3)),
                         mk_(2,4) |-> new 仮想ドア(mk_(2,4)),
                         mk_(2,7) |-> new 仮想ドア(mk_(2,7)),
                         mk_{-}(3,0) |-> new 出口ドア (mk_{-}(3,0), <アンロック>, <閉>),
                         mk_{-}(4,5) |-> new 入口ドア (mk_{-}(4,5), <ロック>, <閉>),
                         mk_(5,6) |-> new 仮想ドア(mk_(5,6)),
                         mk_{-}(6,2) |-> new 出口ドア (mk_{-}(6,2), <アンロック>, <閉>),
                         mk_{-}(7,8) |-> new 入口ドア (mk_{-}(7,8), <ロック>, <閉>),
                         mk_(8,9) |-> new 仮想ドア(mk_(8,9)),
                         mk_(9,2) |-> new 出口ドア(mk_(9,2),<アンロック>,<閉>)},
                         mk_token ("ID 端末") |->
                         {1 |-> new ID 端末 (1,<α>),
                         4 |-> new ID 端末 (4,<β>),
                         7 |-> new ID 端末 (7,<β>),
                         5 |-> new ID 端末 (5,<γ>),
                         8 |-> new ID 端末 (8,<γ>)},
                         mk_token ("タッチパネル") |->
                         {5 |-> new タッチパネル (5,<入力不可能>),
                         8 |-> new タッチパネル (8,<入力不可能>)},
                        mk_token ("ID カード") |->
                         {1 |-> new ID カード (1, <有効>), 2 |-> new ID カード (2, <有効>),
                         3 |-> new ID カード (3, <有効>), 4 |-> new ID カード (4, <有効>),
                         5 |-> new ID カード (5,<無効>)},
                         mk_token("センサー") |->
                         let センサー 2 = \text{new} センサー (2, \{2, 3, 4, 7\}, \langle \text{人は居ない} \rangle),
                             センサー 5 = \text{new} センサー (5, \{5, 6\}, < \text{人は居ない}),
                             センサー8 = new センサー(8, \{8,9\}, <人は居ない>) in
                         {2 |-> センサー 2,3 |-> センサー 2,4 |-> センサー 2,7 |-> センサ
-2,
                         5 |-> センサー 5,6 |-> センサー 5,
                         8 |-> センサー 8,9 |-> センサー 8}});
```

```
protected ガードコマンド集合: set of ガードコマンド:= def mk_(w 黒板属性 DB,-) = s 大域黒板. 得る() in
                new ガードコマンド-センサー_仮想世界 (2), new ガードコマンド-センサー_仮想世界 (3),
                new ガードコマンド_センサー_仮想世界 (4), new ガードコマンド_センサー_仮想世界 (5),
                new ガードコマンド-センサー_仮想世界(6),new ガードコマンド-センサー_仮想世界(7),
                new ガードコマンド_センサー_仮想世界(8), new ガードコマンド_センサー_仮想世界(9),
                new ガードコマンド_センサー(2), new ガードコマンド_センサー(3), new ガードコマンド_センサー(3)
                new ガードコマンド-センサー(5), new ガードコマンド-センサー(6), new ガードコマンド-セ
                new ガードコマンド_利用者案内無し移動(0),new ガードコマンド_利用者案内無し移動(1),
                new ガードコマンド_利用者案内無し移動(3),new ガードコマンド_利用者案内無し移動(4),
                 new ガードコマンド_利用者案内無し移動(5),new ガードコマンド_利用者案内無し移動(6),
                new ガードコマンド_利用者案内無し移動(7),new ガードコマンド_利用者案内無し移動(8),
                new ガードコマンド_利用者案内無し移動(9), new ガードコマンド_利用者案内有移動(2),
                new ガードコマンド_ID 端末_OK (wID 端末 DB (1)), new ガードコマンド_ID 端末_NG (wID 端末
                new ガードコマンド_ID 端末_OK (wID 端末 DB (4)), new ガードコマンド_ID 端末_NG (wID 端末
                new ガードコマンド_ID 端末_OK (wID 端末 DB (7)), new ガードコマンド_ID 端末_NG (wID 端末
                new ガードコマンド_ID 端末_OK_仮想世界 (wID 端末 DB (1)), new ガードコマンド_ID 端末_OK_
                 new ガードコマンド_ID 端末_OK_仮想世界 (wID 端末 DB (7)),
                new ガードコマンド_ID 端末 γ_NG (wID 端末 DB (5)), new ガードコマンド_ID 端末 γ_NG (wID
                new ガードコマンド_ID 端末 γ_OK (wID 端末 DB (8)), new ガードコマンド_ID 端末 γ_NG (wID
                new ガードコマンド_ID 端末 γ_OK_仮想世界 (wID 端末 DB (5)), new ガードコマンド_ID 端末 γ
                new ガードコマンド_利用者_ドアを開ける(1), new ガードコマンド_利用者_ドアを開ける(3),
                new ガードコマンド_利用者_ドアを開ける(4),new ガードコマンド_利用者_ドアを開ける(6),
                 new ガードコマンド_利用者_ドアを開ける(7), new ガードコマンド_利用者_ドアを開ける(9),
                new ガードコマンド_利用者_ドアを閉める(0), new ガードコマンド_利用者_ドアを閉める(2),
                new ガードコマンド_利用者_ドアを閉める(5), new ガードコマンド_利用者_ドアを閉める(8),
                new ガードコマンド_利用者_認証_仮想世界(1), new ガードコマンド_利用者_認証_仮想世界(4)
                new ガードコマンド_利用者_認証_仮想世界(5),new ガードコマンド_利用者_認証_仮想世界(7)
                new ガードコマンド_利用者_認証_仮想世界(8),
                new ガードコマンド_利用者_認証 (1), new ガードコマンド_利用者_認証 (4),
                new ガードコマンド_利用者_認証 (5), new ガードコマンド_利用者_認証 (7),
                new ガードコマンド_利用者_認証 (8),
                new ガードコマンド<sub>-</sub>案内(2)};
```

operations protected

```
SetUp() ==
   ( MATH'srand(10);
      skip
   );
protected
 TearDown : () ==> ()
 TearDown() ==
   skip
end
TestCaseS
34
    TestCaseST0001 クラス
class
TestCaseST0001 is subclass of TestCaseS
instance variables
 protected ガードコマンド集合: set of ガードコマンド := {
                      new ガードコマンド_利用者案内無し移動(0)};
operations
public
 TestCaseST0001 : seq of char ==> TestCaseST0001
 TestCaseST0001 (nm) ==
   TestCase(nm);
protected
 RunTest : () ==> ()
 RunTest() ==
```

def wID カード = s 大域黒板. 黒板属性を得る()(mk_token("ID カード")); 利用者 1 = new 利用者(1, wID カード(1), s 現在時間, 10) in

mk_token ("実際の利用者居場所") |->

{利用者1 |-> 0}});

for i = 125 to 210 by 25

(s 現在時間 := 100;

(s 大域黒板.initialize({

SetUp : () ==> ()

```
do ( sスケジューラ.doOneCycle(s大域黒板,ガードコマンド集合);
               s 現在時間 := i
            ) :
         let mk_(w 大域黒板属性 DB,-) = s 大域黒板. 得る(),
             w 利用者のいる場所 DB = w 大域黒板属性 DB (mk_token ("実際の利用者居場所")) in
         AssertTrue
             (let {w 利用者} = dom w 利用者のいる場所 DB,
                 {w 場所 } = rng w 利用者のいる場所 DB in
             w 利用者.ID を得る() = 1 and w 場所 = 1 and w 利用者.前にいた場所を得る() = 0)
      )
  )
end
TestCaseST0001
    TestCaseST0002 クラス
35
TestCaseST0002 is subclass of TestCaseS
instance variables
 protected ガードコマンド集合: set of ガードコマンド := def mk_(w 黒板属性 DB,-) = s 大域黒板. 得る() in
                    new ガードコマンド_センサー(2),
                    new ガードコマンド_利用者_認証 (1),
                    new ガードコマンド_利用者_認証_仮想世界(1),
                    new ガードコマンド_利用者_ドアを開ける(1),
                    new ガードコマンド_利用者_ドアを閉める(2),
                    new ガードコマンド_ID 端末_OK (wID 端末 DB (1)),
                    new ガードコマンド_ID 端末_OK_仮想世界 (wID 端末 DB (1)),
                    new ガードコマンド_ID 端末_NG (wID 端末 DB (1)),
                    new ガードコマンド_利用者案内無し移動 (1) };
operations
public
 TestCaseST0002 : seq of char ==> TestCaseST0002
 TestCaseST0002 (nm) ==
  TestCase(nm);
protected
```

```
RunTest : () ==> ()
 RunTest() ==
   ( s 現在時間 := 100:
      def wID カード = s 大域黒板. 黒板属性を得る()(mk_token("ID カード"));
         利用者 1 = new 利用者 (1, wID カード (1), s 現在時間, 10) in
      ( s 大域黒板.initialize({
              mk_token ("実際の利用者居場所") |->
              {利用者1 |-> 1}});
         for i = 125 \text{ to } 300 \text{ by } 25
         do ( sスケジューラ.doOneCycle(s大域黒板,ガードコマンド集合);
               s 現在時間 := i
            ) ;
         let mk_(w 大域黒板属性 DB,-) = s 大域黒板. 得る(),
             w 利用者のいる場所 DB = w 大域黒板属性 DB (mk_token ("実際の利用者居場所")),
             w 仮想利用者のいる場所 DB = w 大域黒板属性 DB (mk_token ("仮想世界利用者居場所
")) <u>in</u>
         ( AssertTrue
                (let {w 利用者} = dom w 利用者のいる場所 DB,
                    {w場所} = rng w利用者のいる場所DB,
                    {w 仮想利用者 } = dom w 仮想利用者のいる場所 DB,
                    {w 仮想場所 } = rng w 仮想利用者のいる場所 DB in
                 s 大域黒板. 実際と仮想の利用者居場所が等しい (w 利用者のいる場所 DB, w 仮想利
用者のいる場所 DB) and
                 w 利用者.ID を得る() = 1 and
                 w場所 = 2 and w利用者. 前にいた場所を得る() = nil and
                 w 仮想利用者.ID を得る() = 1 and
                 w 仮想場所 = 2 and w 利用者. 前にいた場所を得る() = nil)
         )
      )
  )
end
TestCaseST0002
36
   TestCaseST0003 クラス
class
```

TestCaseST0003 is subclass of TestCaseS

```
instance variables
```

```
protected ガードコマンド集合: set of ガードコマンド:= def mk_(w 黒板属性 DB,-) = s 大域黒板. 得る() in
               new ガードコマンド_センサー_仮想世界(2), new ガードコマンド_センサー_仮想世界(3),
               new ガードコマンド-センサー_仮想世界 (4), new ガードコマンド-センサー_仮想世界 (5),
               new ガードコマンド_センサー_仮想世界(6), new ガードコマンド_センサー_仮想世界(7),
               new ガードコマンド-センサー_仮想世界(8),new ガードコマンド-センサー_仮想世界(9),
               new ガードコマンド_センサー(8), new ガードコマンド_センサー(9),
               new ガードコマンド_利用者_認証 (1), new ガードコマンド_利用者_認証 (4),
               new ガードコマンド_利用者_認証 (7),
               new ガードコマンド_利用者_認証_仮想世界(1),new ガードコマンド_利用者_認証_仮想世界(4)
               new ガードコマンド_利用者_認証_仮想世界 (7),
               new ガードコマンド_利用者_ドアを開ける(1), new ガードコマンド_利用者_ドアを開ける(4),
               new ガードコマンド_利用者_ドアを開ける(7),new ガードコマンド_利用者_ドアを閉める(2),
               new ガードコマンド_利用者_ドアを閉める(5), new ガードコマンド_利用者_ドアを閉める(8),
               new ガードコマンド_ID 端末_OK (wID 端末 DB (1)), new ガードコマンド_ID 端末_NG (wID 端末
               new ガードコマンド_ID 端末_OK (wID 端末 DB (4)), new ガードコマンド_ID 端末_NG (wID 端末
               new ガードコマンド_ID 端末_OK (wID 端末 DB (7)), new ガードコマンド_ID 端末_NG (wID 端末
               new ガードコマンド_ID 端末_OK_仮想世界(wID 端末 DB(1)), new ガードコマンド_ID 端末_OK_
               new ガードコマンド_ID 端末_OK_仮想世界 (wID 端末 DB (7)),
               new ガードコマンド_利用者案内無し移動(1),new ガードコマンド_利用者案内無し移動(4),
               new ガードコマンド_利用者案内無し移動 (7)};
```

operations

public

```
TestCaseST0003: seq of char ==> TestCaseST0003
TestCaseST0003(nm) ==
    TestCase(nm);

protected
RunTest:() ==> ()
RunTest() ==
    ( s 現在時間:= 100;
    def wID カード = s 大域黒板. 黒板属性を得る()(mk_token("ID カード"));
    利用者 1 = new 利用者(1,wID カード(1),s 現在時間,10);
利用者 2 = new 利用者(2,wID カード(2),s 現在時間,10);
```

```
利用者 3 = new 利用者 (3, wID カード (3), s 現在時間, 10) in
      ( s 大域黒板.initialize({
              mk_token ("実際の利用者居場所") |->
              {利用者1 |-> 1,利用者2 |-> 4,利用者3 |-> 7}});
         for i = 125 to 200 by 25
         do ( sスケジューラ.doOneCycle(s大域黒板,ガードコマンド集合);
               s 現在時間 := i
            ) :
         let mk_(w 大域黒板属性 DB,-) = s 大域黒板. 得る(),
             w 利用者のいる場所 DB = w 大域黒板属性 DB (mk_token ("実際の利用者居場所")),
             w 仮想利用者のいる場所 DB = w 大域黒板属性 DB (mk_token ("仮想世界利用者居場所
")) <u>in</u>
         AssertTrue
             (let {w 利用者 1} = dom (w 利用者のいる場所 DB:> {2}),
                 {w 利用者 2} = dom (w 利用者のいる場所 DB:> {5}),
                 {w 利用者 3} = dom (w 利用者のいる場所 DB:> {8}),
                 利用者 ID1 = w 利用者 1.ID を得る(),
                 利用者 ID2 = w 利用者 2.ID を得る(),
                 利用者 ID3 = w 利用者 3.ID を得る(),
                 {w 仮想利用者 1} = dom (w 仮想利用者のいる場所 DB:> {1}),
                 {w 仮想利用者 2} = dom (w 仮想利用者のいる場所 DB:> {4}),
                 {w 仮想利用者 3} = dom (w 仮想利用者のいる場所 DB:> {7}),
                 仮想利用者 ID1 = w 仮想利用者 1.ID を得る(),
                 仮想利用者 ID2 = w 仮想利用者 2.ID を得る().
                 仮想利用者 ID3 = w 仮想利用者 3.ID を得る() in
             利用者 ID1 = 1 and 利用者 ID2 = 2 and 利用者 ID3 = 3 and
             w 利用者 1. 前にいた場所を得る() = 1 and
             w利用者 2. 前にいた場所を得る() = 4 and w利用者 3. 前にいた場所を得る() = 7 and
             仮想利用者 ID1 = 1 and
             仮想利用者 ID2 = 2 and 仮想利用者 ID3 = 3 and
             w 仮想利用者 1. 前にいた場所を得る() = nil and
             w 仮想利用者 2. 前にいた場所を得る() = nil and w 仮想利用者 3. 前にいた場所を得る() = nil)
      )
  )
end
TestCaseST0003
```

37 TestCaseST0004 クラス

class TestCaseST0004 is subclass of TestCaseS instance variables protected ガードコマンド集合: set of ガードコマンド := $\{$ new ガードコマンド_利用者案内有移動(2), new ガードコマンド₋案内(2)}; operations public TestCaseST0004 : seq of char ==> TestCaseST0004 TestCaseST0004 (nm) == TestCase(nm); protected RunTest : () ==> () RunTest() == (s 現在時間 := 100; def wID カード = s 大域黒板. 黒板属性を得る()(mk_token("ID カード")); 利用者 1 = new 利用者 (1, wID カード(1), s 現在時間, 10); 利用者 2 = new 利用者 (2, wID カード (2), s 現在時間, 10) in (s 大域黒板.initialize({ mk_token ("実際の利用者居場所") |-> {利用者1 |-> 2,利用者2 |-> 2}}); for i = 125 to 300 by 25do (sスケジューラ.doOneCycle(s大域黒板,ガードコマンド集合); s 現在時間 := i) : let mk_(w 大域黒板属性 DB,-) = s 大域黒板. 得る(),

```
w 利用者のいる場所 DB = w 大域黒板属性 DB (mk_token ("実際の利用者居場所")) in
         AssertTrue
             (let {w 利用者 a} = dom (w 利用者のいる場所 DB:> {4}),
                 {w 利用者 b} = dom (w 利用者のいる場所 DB:> {7}),
                 利用者 IDa = w 利用者 a.ID を得る(),
                 利用者 IDb = w 利用者 b.ID を得る() in
             利用者 IDa in set {1,2} and 利用者 IDb in set {1,2} and 利用者 IDa <> 利用
者 IDb and
             w利用者 a. 前にいた場所を得る() = 2 and
             w 利用者 b. 前にいた場所を得る() = 2)
      )
   )
end
TestCaseST0004
    TestCaseST0005 クラス
38
 このテストケースは、vdmj の乱数生成に依存している。
class
TestCaseST0005 is subclass of TestCaseS
operations
public
 TestCaseST0005 : seq of char ==> TestCaseST0005
 TestCaseST0005 (nm) ==
  TestCase(nm);
protected
 RunTest : () ==> ()
 RunTest() ==
   ( s 現在時間 := 100;
      def wID カード = s 大域黒板. 黒板属性を得る()(mk_token("ID カード"));
         利用者 1 = new 利用者 (1, wID カード (1), s 現在時間 + 100, 25);
         利用者 2 = new 利用者 (2, wID カード (2), s 現在時間 + 125,50);
         利用者 3 = new 利用者 (3, wID カード (3), s 現在時間 + 150,75) in
      ( s 大域黒板.initialize({
              mk_token ("実際の利用者居場所") |->
              {利用者 1 |-> 1,利用者 2 |-> 4,利用者 3 |-> 7}});
         for i = 125 \text{ to } 300 \text{ by } 25
```

```
do ( sスケジューラ.doOneCycle(s大域黒板,ガードコマンド集合);
               s 現在時間 := i
            ) :
         let mk_(w 大域黒板属性 DB,-) = s 大域黒板. 得る(),
             w 利用者のいる場所 DB = w 大域黒板属性 DB (mk_token ("実際の利用者居場所")),
             w 仮想利用者のいる場所 DB = w 大域黒板属性 DB (mk_token ("仮想世界利用者居場所
")) <u>in</u>
         AssertTrue
             (let {w 利用者 1} = dom (w 利用者のいる場所 DB:> {2}),
                 {w 利用者 2} = dom (w 利用者のいる場所 DB:> {5}),
                 {w 利用者 3} = dom (w 利用者のいる場所 DB:> {8}),
                 利用者 ID1 = w 利用者 1.ID を得る(),
                 利用者 ID2 = w 利用者 2.ID を得る(),
                 利用者 ID3 = w 利用者 3.ID を得る(),
                 {w 仮想利用者 1} = dom (w 仮想利用者のいる場所 DB:> {2}),
                 {w 仮想利用者 2} = dom (w 仮想利用者のいる場所 DB:> {4}),
                 \{w 仮想利用者 3\} = dom (w 仮想利用者のいる場所 DB :> {7}),
                 仮想利用者 ID1 = w 仮想利用者 1.ID を得る(),
                 仮想利用者 ID2 = w 仮想利用者 2.ID を得る(),
                 仮想利用者 ID3 = w 仮想利用者 3.ID を得る() in
             利用者 ID1 = 1 and 利用者 ID2 = 2 and 利用者 ID3 = 3 and
             w 利用者 1. 前にいた場所を得る() = nil and
             w利用者 2. 前にいた場所を得る() = 4 and w利用者 3. 前にいた場所を得る() = 7 and
             仮想利用者 ID1 = 1 and
             仮想利用者 ID2 = 2 and 仮想利用者 ID3 = 3 and
             w 仮想利用者 1. 前にいた場所を得る() = 1 and
             w 仮想利用者 2. 前にいた場所を得る() = nil and w 仮想利用者 3. 前にいた場所を得る() = nil)
      )
  )
end
TestCaseST0005
    TestCaseST0006 クラス
39
class
TestCaseST0006 is subclass of TestCaseS
operations
```

```
public
 TestCaseST0006 : seq of char ==> TestCaseST0006
 TestCaseST0006 (nm) ==
   TestCase(nm);
protected
 RunTest : () ==> ()
 RunTest() ==
   ( s 現在時間 := 100;
      def wID カード = s 大域黒板. 黒板属性を得る()(mk_token("ID カード"));
          利用者 1 = new 利用者 (1, wID カード (1), s 現在時間 + 100, 25) in
      ( s 大域黒板.initialize({
               mk_token ("実際の利用者居場所") |->
               { 利用者 1 |-> 7}});
          for i = 125 \text{ to } 300 \text{ by } 25
          do ( sスケジューラ.doOneCycle(s大域黒板,ガードコマンド集合);
                s 現在時間 := i
            ) ;
          let mk_(w 大域黒板属性 DB,-) = s 大域黒板. 得る(),
             w 利用者のいる場所 DB = w 大域黒板属性 DB (mk_token ("実際の利用者居場所")),
             w 仮想利用者のいる場所 DB = w 大域黒板属性 DB (mk_token ("仮想世界利用者居場所
")) in
          AssertTrue
             (let {w 利用者 1} = dom (w 利用者のいる場所 DB :> {9}),
                  利用者 ID1 = w 利用者 1.ID を得る(),
                  {w 仮想利用者 1} = dom (w 仮想利用者のいる場所 DB:> {8}),
                  仮想利用者 ID1 = w 仮想利用者 1.ID を得る() in
              利用者 ID1 = 1 and w 利用者 1. 前にいた場所を得る() = 8 and
              仮想利用者 ID1 = 1 and
              w 仮想利用者 1. 前にいた場所を得る() = 7)
      )
   )
end
TestCaseST0006
    TestCaseST0007 クラス
40
class
```

```
TestCaseST0007 is subclass of TestCaseS
operations
public
 TestCaseST0007 : seq of char ==> TestCaseST0007
 TestCaseST0007 (nm) ==
   TestCase(nm);
protected
 RunTest : () ==> ()
 RunTest() ==
   ( s 現在時間 := 100;
      def wID カード = s 大域黒板. 黒板属性を得る()(mk_token("ID カード"));
          利用者 1 = new 利用者 (1, wID カード (1), s 現在時間 + 100, 25);
          利用者 2 = new 利用者 (2, wID カード (2), s 現在時間 + 125,50);
          利用者 3 = new 利用者 (3, wID カード (3), s 現在時間 + 150,75) in
       ( s 大域黒板.initialize({
               mk_token ("実際の利用者居場所") |->
               {利用者1 |-> 0,利用者2 |-> 0,利用者3 |-> 0}});
          for i = 125 \text{ to } 750 \text{ by } 25
          do ( sスケジューラ.doOneCycle(s大域黒板,ガードコマンド集合);
                s 現在時間 := i
             );
          let mk_(w 大域黒板属性 DB,-) = s 大域黒板. 得る(),
              w 利用者のいる場所 DB = w 大域黒板属性 DB (mk_token ("実際の利用者居場所")),
```

w 仮想利用者のいる場所 DB = w 大域黒板属性 DB (mk_token ("仮想世界利用者居場所

```
")) in
          AssertTrue
             (let {w 利用者 1} = dom (w 利用者のいる場所 DB :> {4}),
                 {w 利用者 2} = dom (w 利用者のいる場所 DB:> {2}),
                 {w 利用者 3} = dom (w 利用者のいる場所 DB:> {7}),
                 利用者 ID1 = w 利用者 1.ID を得る(),
                 利用者 ID2 = w 利用者 2.ID を得る(),
                 利用者 ID3 = w 利用者 3.ID を得る(),
                 {w 仮想利用者 1} = dom (w 仮想利用者のいる場所 DB:> {4}),
                 {w 仮想利用者 2} = dom (w 仮想利用者のいる場所 DB:> {9}),
                 {w 仮想利用者 3} = dom (w 仮想利用者のいる場所 DB:> {8}),
                 仮想利用者 ID1 = w 仮想利用者 1.ID を得る(),
                 仮想利用者 ID2 = w 仮想利用者 2.ID を得る(),
                 仮想利用者 ID3 = w 仮想利用者 3.ID を得る() in
              利用者 ID1 = 1 and 利用者 ID2 = 2 and 利用者 ID3 = 3 and
              w 利用者 1. 前にいた場所を得る() = 2 and
              w 利用者 2. 前にいた場所を得る () = nil and w 利用者 3. 前にいた場所を得る () = 2 and
              仮想利用者 ID1 = 1 and
              仮想利用者 ID2 = 2 and 仮想利用者 ID3 = 3 and
              w 仮想利用者 1. 前にいた場所を得る() = 2 and
              w 仮想利用者 2. 前にいた場所を得る() = 8 and w 仮想利用者 3. 前にいた場所を得る() = 7)
      )
   )
end
TestCaseST0007
    TestCaseST0008 クラス
41
class
TestCaseST0008 is subclass of TestCaseS
operations
public
 TestCaseST0008 : seq of char ==> TestCaseST0008
 TestCaseST0008 (nm) ==
   TestCase(nm);
protected
```

```
RunTest : () ==> ()
RunTest() ==
  ( s 現在時間 := 100;
     def wID カード = s 大域黒板. 黒板属性を得る()(mk_token("ID カード"));
         利用者 1 = new 利用者 (1, wID カード (1), s 現在時間 + 100, 25);
         利用者 2 = new 利用者 (2, wID カード (2), s 現在時間 + 125,50);
         利用者 3 = new 利用者 (3, wID カード (3), s 現在時間 + 150,75) in
     ( s 大域黒板.initialize({
              mk_token ("実際の利用者居場所") |->
              {利用者 1 |-> 9,利用者 2 |-> 4,利用者 3 |-> 2}});
         for i = 125 \text{ to } 325 \text{ by } 25
         do ( sスケジューラ.doOneCycle(s大域黒板,ガードコマンド集合);
               s 現在時間 := i
           ) ;
        let mk_(w 大域黒板属性 DB,-) = s 大域黒板. 得る(),
            w 利用者のいる場所 DB = w 大域黒板属性 DB (mk_{token} ("実際の利用者居場所")),
```

```
w 仮想利用者のいる場所 DB = w 大域黒板属性 DB (mk_token ("仮想世界利用者居場所
")) in
           AssertTrue
               (let {w 利用者 1} = dom (w 利用者のいる場所 DB:> {7}),
                    {w 利用者 2} = dom (w 利用者のいる場所 DB:> {6}),
                    {w 利用者 3} = dom (w 利用者のいる場所 DB:> {2}),
                    利用者 ID1 = w 利用者 1.ID を得る(),
                    利用者 ID2 = w 利用者 2.ID を得る(),
                    利用者 ID3 = w 利用者 3.ID を得る(),
                    {w 仮想利用者 1} = dom (w 仮想利用者のいる場所 DB:> {7}),
                    {w 仮想利用者 2} = dom (w 仮想利用者のいる場所 DB:> {5}),
                    仮想利用者 ID1 = w 仮想利用者 1.ID を得る(),
                    仮想利用者 ID2 = w 仮想利用者 2.ID を得る() in
                利用者 ID1 = 1 and 利用者 ID2 = 2 and 利用者 ID3 = 3 and
                w 利用者 1. 前にいた場所を得る() = 2 and
                w 利用者 2. 前にいた場所を得る () = 5 and w 利用者 3. 前にいた場所を得る () = nil and
                仮想利用者 ID1 = 1 and
                仮想利用者 ID2 = 2 and
                w 仮想利用者 1. 前にいた場所を得る() = 2 and
                w 仮想利用者 2. 前にいた場所を得る() = 4);
            if not s 大域黒板. 実際と仮想の利用者居場所が等しい (w 利用者のいる場所 DB, w 仮想
利用者のいる場所 DB)
            then s 大域黒板、実際と仮想の利用者居場所を比較表示する (w 利用者のいる場
所 DB. w 仮想利用者のいる場所 DB)
      )
  )
end
TestCaseST0008
    TestCaseST0009 クラス
42
class
TestCaseST0009 is subclass of TestCaseS
operations
public
```

```
TestCaseST0009 : seq of char ==> TestCaseST0009
 TestCaseST0009 (nm) ==
   TestCase(nm);
protected
 RunTest : () ==> ()
 RunTest() ==
   ( s 現在時間 := 100;
      def wID カード = s 大域黒板. 黒板属性を得る()(mk_token("ID カード"));
          利用者 1 = new 利用者 (1, wID カード(1), s 現在時間 + 100, 25);
          利用者 2 = new 利用者 (2, wID カード(5), s 現在時間 + 125,50);
          利用者 3 = new 利用者 (3, wID カード (3), s 現在時間 + 150,75) in
       ( s 大域黒板.initialize({
               mk_token ("実際の利用者居場所") |->
                {利用者 1 |-> 9,利用者 2 |-> 4,利用者 3 |-> 2}});
          for i = 125 \text{ to } 325 \text{ by } 25
          do ( sスケジューラ.doOneCycle(s大域黒板,ガードコマンド集合);
                s 現在時間 := i
             ) ;
          let mk_(w 大域黒板属性 DB,-) = s 大域黒板. 得る(),
              w 利用者のいる場所 DB = w 大域黒板属性 DB (mk_token ("実際の利用者居場所")),
```

w 仮想利用者のいる場所 DB = w 大域黒板属性 DB (mk_token ("仮想世界利用者居場所

```
")) in
          AssertTrue
             (let {w 利用者 1} = dom (w 利用者のいる場所 DB :> {7}),
                 {w 利用者 2} = dom (w 利用者のいる場所 DB:> {4}),
                 {w 利用者 3} = dom (w 利用者のいる場所 DB:> {2}),
                 利用者 ID1 = w 利用者 1.ID を得る(),
                 利用者 ID2 = w 利用者 2.ID を得る(),
                 利用者 ID3 = w 利用者 3.ID を得る(),
                 {w 仮想利用者 1} = dom (w 仮想利用者のいる場所 DB:> {7}),
                 {w 仮想利用者 2} = dom (w 仮想利用者のいる場所 DB:> {4}),
                 仮想利用者 ID1 = w 仮想利用者 1.ID を得る(),
                 仮想利用者 ID2 = w 仮想利用者 2.ID を得る() in
              利用者 ID1 = 1 and 利用者 ID2 = 2 and 利用者 ID3 = 3 and
              w 利用者 1. 前にいた場所を得る() = 2 and
              w 利用者 2. 前にいた場所を得る () = nil and w 利用者 3. 前にいた場所を得る () = nil and
              仮想利用者 ID1 = 1 and
              仮想利用者 ID2 = 2 and
              w 仮想利用者 1. 前にいた場所を得る() = 2 and
              w 仮想利用者 2. 前にいた場所を得る() = nil)
      )
  )
end
TestCaseST0009
    TestCaseST0010 クラス
43
TestCaseST0010 is subclass of TestCaseS
operations
public
 TestCaseST0010 : seq of char ==> TestCaseST0010
 TestCaseST0010(nm) ==
  TestCase(nm);
```

protected

```
RunTest : () ==> ()
 RunTest() ==
   ( s 現在時間 := 100:
      def wID カード = s 大域黒板. 黒板属性を得る()(mk_token("ID カード"));
          利用者 1 = new 利用者 (1, wID カード (1), s 現在時間 + 100, 25);
          利用者 2 = new 利用者 (2, wID カード(5), s 現在時間 + 125,50);
          利用者 3 = new 利用者 (3, wID カード (3), s 現在時間 + 150,75) in
      ( s 大域黒板.initialize({
               mk_token ("実際の利用者居場所") |->
               {利用者 1 |-> 9,利用者 2 |-> 5,利用者 3 |-> 2}});
         for i = 125 \text{ to } 325 \text{ by } 25
          do ( sスケジューラ.doOneCycle(s大域黒板,ガードコマンド集合);
               s 現在時間 := i
            ) :
         let mk_(w 大域黒板属性 DB,-) = s 大域黒板. 得る(),
             w 利用者のいる場所 DB = w 大域黒板属性 DB (mk_token ("実際の利用者居場所")),
             w 仮想利用者のいる場所 DB = w 大域黒板属性 DB (mk_token ("仮想世界利用者居場所
")) in
          AssertTrue
             (let {w 利用者 1} = dom (w 利用者のいる場所 DB:> {7}),
                 {w 利用者 2, w 利用者 3} = dom (w 利用者のいる場所 DB:> {2}),
                 利用者 ID1 = w 利用者 1.ID を得る(),
                 利用者 ID2 = w 利用者 2.ID を得る(),
                 利用者 ID3 = w 利用者 3.ID を得る(),
                 {w 仮想利用者 1} = dom (w 仮想利用者のいる場所 DB:> {7}),
                 {w 仮想利用者 2} = dom (w 仮想利用者のいる場所 DB:> {5}),
                 仮想利用者 ID1 = w 仮想利用者 1.ID を得る(),
                 仮想利用者 ID2 = w 仮想利用者 2.ID を得る() in
              {利用者 ID1,利用者 ID2} = {1,2} and 利用者 ID3 = 3 and
              \{w 利用者 1. 前にいた場所を得る(), w 利用者 2. 前にいた場所を得る()\} = \{2,6\} and
              w 利用者 3. 前にいた場所を得る() = nil and
              仮想利用者 ID1 = 1 and
              仮想利用者 ID2 = 2 and
              w 仮想利用者 1. 前にいた場所を得る() = 2 and
              w 仮想利用者 2. 前にいた場所を得る() = nil)
      )
  )
end
TestCaseST0010
```

入退出管理システム VDM++ 仕様

44 タッチパネルクラス

```
class
タッチパネル is subclass of オブジェクト
types
 public タッチパネル状態 = <入力可能> | <入力不可能>;
 public タッチパネル位置 = 場所グラフ '場所 ID
instance variables
 public s タッチパネル状態: タッチパネル状態:= <入力不可能>;
 public s タッチパネル位置: タッチパネル位置;
operations
public
 タッチパネル:タッチパネル位置 * タッチパネル状態 ==> タッチパネル
 タッチパネル(a タッチパネル位置, a タッチパネル状態) == atomic
  ( s タッチパネル状態 := a タッチパネル状態;
     s タッチパネル位置:= a タッチパネル位置
  );
public
 コピーする:タッチパネル位置 ==> タッチパネル
 コピーする(a タッチパネル位置) ==
  ( return new タッチパネル (a タッチパネル位置,s タッチパネル状態)
  );
public
 位置を得る:() ==> タッチパネル位置
 位置を得る() ==
  return s タッチパネル位置;
public
 ID を得る:() ==> タッチパネル位置
 ID を得る() ==
  return 位置を得る();
public
 入力可能にする:() ==>()
 入力可能にする() ==
  s タッチパネル状態:= <入力可能>;
public
```

45 利用者クラス

```
class
利用者 is subclass of オブジェクト
types
 public 利用者 ID = ID
45.1 インスタンス変数
 s 到着時間は、利用者がある場所に到着した時間を示す。
 s 躊躇する最大時間は、移動を躊躇する最大時間である。
.....
instance variables
 public s 利用者 ID: 利用者 ID;
 public sID カード: ID カード;
 public s 到着時間: 時間;
 public s 前にいた場所: [場所グラフ '場所 ID] := nil;
 public s 躊躇する最大時間: 時間;
 public s 作成者名: seq of char := "";
45.2 操作
operations
public
 利用者:利用者 ID * ID カード * 時間 * 時間 ==> 利用者
 利用者 (a 利用者 ID, aID カード, a 到着時間, a 気まぐれ時間) == atomic
   ( s 利用者 ID := a 利用者 ID;
     sID \, \mathcal{D} - \mathcal{F} := aID \, \mathcal{D} - \mathcal{F};
     s 到着時間 := a 到着時間;
     s 躊躇する最大時間 := a 気まぐれ時間
  );
public
```

45.2 操作 [107 / 111]

```
利用者:利用者 ID * ID カード * 時間 * [場所グラフ '場所 ID] * 時間 * seq of char ==> 利
用者
 利用者 (a 利用者 ID, aID カード, a 到着時間, a 前にいた場所, a 気まぐれ時間, a 作成者名) == atomic
   ( s 利用者 ID := a 利用者 ID;
     sID \, \mathcal{D} - \mathcal{F} := aID \, \mathcal{D} - \mathcal{F};
     s 到着時間 := a 到着時間;
     s 前にいた場所 := a 前にいた場所;
     s 躊躇する最大時間 := a 気まぐれ時間;
     s作成者名:= a作成者名
  );
45.2.1 属性を得る
 利用者の属性が同じかを判定するための属性を得る。
.......
public
 属性を得る:() ==> 利用者 ID * ID カード * 時間
 属性を得る() ==
  return mk_(s 利用者 ID, sID カード, s 躊躇する最大時間);
public
 コピーする: seq of char ==> 利用者
 コピーする(a 作成者名) ==
  ( return new 利用者 (s 利用者 ID, sID カード, s 到着時間, s 前にいた場所, s 躊躇する最大時間
,a 作成者名)
  );
public
 ID カードを得る:() ==> ID カード
 ID カードを得る() ==
  return sID カード;
public
 ID を得る:() ==> 利用者 ID
 ID を得る() ==
  return s 利用者 ID;
public
 有効な ID を持っている:() ==> bool
 有効な ID を持っている() == sID カード.
  有効である():
public
```

```
到着時間を更新する:() ==> 利用者
到着時間を更新する() ==
  ( s到着時間 := s現在時間;
    return self
  );
public
 前にいた場所を設定する: [場所グラフ '場所 ID] ==> ()
 前にいた場所を設定する(a場所 ID) ==
  s前にいた場所 := a場所 ID;
public
 前にいた場所を得る:() ==> [場所グラフ '場所 ID]
 前にいた場所を得る() ==
  return s 前にいた場所;
public
移動していない:() ==> bool
移動していない()==
  return s 前にいた場所 = nil;
.....
45.3 移動する気になった時間である
 利用者が移動する気になった時間を、ランダムに決定する。
......
public
移動する気になった時間である:() ==> bool
移動する気になった時間である() ==
  def w 乱数 = MATH'rand(s 躊躇する最大時間);
    ₩時間の乱れ =
      if s 躊躇する最大時間 = 0
      then 0
      else w 乱数 / s 躊躇する最大時間;
```

45.4 到着時間が一番早い利用者を選ぶ

到着時間が一番早い利用者の集合から一つを選ぶ。到着時間が一番早い利用者が複数存在する場合、現在の 選び方は処理系依存である。

.....

public static

到着時間が一番早い利用者を選ぶ: set of 利用者 ==> 利用者 到着時間が一番早い利用者を選ぶ(a利用者集合) ==

let w次の利用者 in set a 利用者集合 be st

forall w 利用者 in set a 利用者集合 & w 次の利用者.s 到着時間 <= w 利用者.s 到着時

間 in

```
return w 次の利用者
pre a 利用者集合 <> {}
```

post forall w 利用者 in set a 利用者集合 & RESULT.s 到着時間 <= w 利用者.s 到着時間

end

利用者

Test Suite: vdm.tc

Class: 利用者

Name	#Calls	Coverage
利用者 'ID を得る	0	0%
利用者 'コピーする	0	0%
利用者 '属性を得る	0	0%
利用者 '移動していない	0	0%
利用者 'ID カードを得る	0	0%
利用者 '到着時間を更新する	0	0%
利用者 '前にいた場所を得る	0	0%

Name	#Calls	Coverage
利用者 '前にいた場所を設定する	0	0%
利用者 '有効な ID を持っている	0	0%
利用者 '移動する気になった時間である	0	0%
利用者 '到着時間が一番早い利用者を選ぶ	0	0%
利用者'利用者	0	0%
利用者'利用者	0	0%
Total Coverage		0%

46 参考文献等

VDM++[2] は、1970 年代中頃に IBM ウィーン研究所で開発された VDM-SL[1] を拡張し、さらにオブジェクト指向拡張した形式仕様記述言語で、フリーソフトウェア *1 である。

参考文献

- [1] Kyushu University. VDM-SL 言語マニュアル. Kyushu University, 第 2.0 版, 2016. Revised for VDMTools V9.0.2.
- [2] Kyushu University. VDMTools VDM++ 言語マニュアル. Kyushu University, 第 2.0 版, 2016. Revised for VDMTools V9.0.2.

^{*1} GNU General Public License v3.0